

資料紹介 猪瀬弘之少尉が遺した軍事郵便

八巻 聡

はじめに

平成二十三（二〇一一）年二月、太平洋戦争末期の沖縄戦に於いて特攻戦死された猪瀬弘之少尉（戦死後の階級。以下、猪瀬少尉と称する）の遺品が知覧特攻平和会館に寄贈された。

遺品は特攻隊員として征く前に遺した遺書や所持品に限らず、航空の道に進み訓練を受けていた頃のもの、それ以前の学生時代や幼少期のものなど幅広い時期のものであった。

さらに、猪瀬少尉自身のものではないが、家族の間でやりとりした葉書や同隊の遺族や交流を持った方々からの手紙も含まれており、第三者からの視点で特攻隊員の人物像や立ち振る舞い、受け入れ側の有り様を検証できるものもあった。

沖縄戦で一〇三六名の陸軍の特攻隊員が戦死し、当館には約八千五百点の特攻隊員に関する資料を所蔵しているが、一人の隊員で幼少期から戦死するまで、そしてその周囲の人々が交わした記録までもが残されている隊員は極めて少ない。

平成二十五（二〇一三）年三月二十六日～五月三十一日、猪瀬少尉を紹介する「生い立ちから特攻までの記録 ～最期まで綴った家族への便り～」の企画展を開催した。

その際、「両親・姉宛ての遺書が同時期に三通（手紙7、8、9）も書かれていることに気が付いた。他にも、軍用葉書（葉書42、43、44）でありながら切手を貼って普通郵便として出されているもの、

出撃間際に走り書きされたであろう葉書（葉書47）は宛先・宛名が未記入にも拘わらず遺族のもとに届いているなど、何故これだけのものを書いたのか、このような軍事郵便が出せるのか、そして、どのようにして遺品は届けられたのか関心を持った。

また、葉書を時系列に並べると飛行兵の歩みを始める前から特攻で戦死するまでのほぼ全期間のものが残っており、今後、調査を進めていけば当時の郵便事情、軍事郵便の役割や検閲の実状、送り手の心理状態などを明らかに出来るのではないかと考えた。

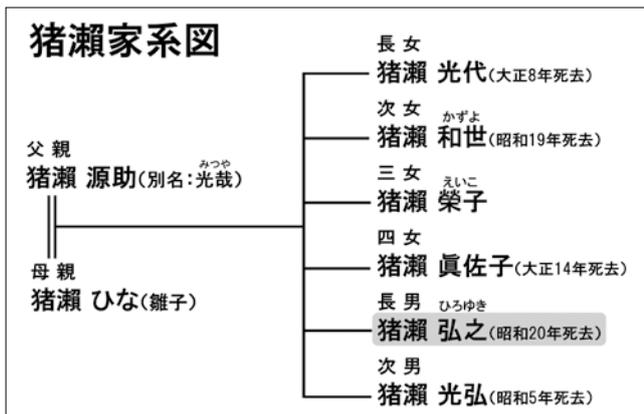
軍事郵便の先行研究として、新井勝紘氏（二〇〇六年『軍事郵便の基礎的研究（序）』国立歴史民俗博物館研究報告）、財満幸恵氏（二〇一〇年『戦中の軍事郵便とその検閲について』昭和のくらし研究）などがあげられる。

先行する研究により、軍事郵便の制度が明らかになり、事例もあげられつつあるが、戦時中に出された膨大な軍事郵便の数からすれば調査の対象となったものはごく僅かである。新井氏も「実例報告が不足している」「質量ともに軍事郵便の基礎的研究が不足しているのである。」と指摘する（同書六九頁）。

当館では、遺書・手紙の内容を中心に紹介していたため、それがいつどこで書かれ、どのようにして届けられたのか、郵便物としての視点が欠けていた。

猪瀬少尉は昭和二十年三月に特攻隊員となり、死と対峙しながら、出撃基地に前進する途中、出撃の直前まで手紙を書き残している。その手紙からはどのようなことが読み取れるのか、多角的な検証が必要である。

本稿では猪瀬少尉の遺品の中から軍事郵便に焦点をしぼり、資料紹介を行う。これらをきっかけに軍事郵便の研究が進展し、歴史資料として広く認知されることを願う次第である。



地図1 猪瀬 弘之少尉関連の地

一・猪瀬家

猪瀬源助・ひなは六人の子供に恵まれるが、長女の光代、四女の眞佐子、次男の光弘は幼少期に亡くなり、成人まで達したのは次女の和世、三女の榮子、長男の弘之であった。

和世は宮城県の後藤家に嫁ぐも昭和十九年二月に病没してしまふ。弘之は長男として猪瀬家を継ぐべき立場として幼少期から期待されて育てられるも昭和十八年十月に航空の道に進み、一年半後の昭和二十年四月、特攻隊員として出撃し、戦死する。

父親の名前は戸籍では源助だが、手紙・葉書の宛名には別名の光哉が使われている。

二・猪瀬 弘之の経歴

猪瀬少尉は大正十四年十一月四日に誕生し、幼年期から青年期までを東京市滝野川区(現在の東京都北区)で過ごす。

本郷中学校卒業後は大学への進学、就職も考えるが逓信省の航空機乗員養成所へ進路を進めた。

昭和十八年十月、印旛地方航空機乗員養成所に入所し地上準備教育を受け、昭和十九年四月からは仙台陸軍飛行学校霞目分教所で基本操縦教育を受け、操縦士の免許を取得。戦況の悪化により軍に編入され第三十教育飛行隊に配属された。

軍の教育飛行隊で敵地への超低空爆撃、急降下爆撃を任務とする襲撃機を操り、戦闘要員としての訓練を積んだ。

満州で錬成教育をしている中、と号要員(特攻隊員)となり、昭和二十年四月十二日、鹿児島県の万世飛行場から出撃し沖縄周辺洋上で戦死した。



写真1 第23教育飛行隊時代
右胸の下には操縦徽章が付けられている。

表1 猪瀬 弘之の生涯

日 付		出 来 事	備 考
大正14年 (1925年)	11月4日	誕生 (本籍地：栃木県下都賀郡穂積村大字石ノ上)	
昭和13年 (1938年)	4月	本郷中学校 入学	
昭和18年 (1943年)	3月5日	本郷中学校 卒業	
	10月20日	印旛地方航空機乗員養成所 入所 (第14期操縦生徒)	地上準備教育 滑空機による訓練
昭和19年 (1944年)	3月下旬	仙台地方航空機乗員養成所へ転属	
	4月1日	仙台陸軍飛行学校 霞日分教所で訓練(仙台、印旛、古河、新潟、京都、米子、岡山、熊本、都城の第14期操縦生が、法改正により、仙台、岡山、筑後、都城に併設された陸軍飛行学校教育隊にて、航空局陸軍委託生徒として教育を受ける)	
	7月21日	仙台地方航空機乗員養成所 卒業 二等操縦士の免許を取得 兵役解除されるはずだったが満期除隊後、即、現役に編入される。 同日、陸軍予備生徒として仙台陸軍飛行学校に入校 同日、乙種予備候補生に採用 同日、上等兵の階級を與えられる	基本操縦教育 ・95式1型中等練習機 ・99式高等練習機
	7月下旬	第30教育飛行隊(西部第104部隊) 配属 (熊本県 菊池飛行場)	基本戦技教育 ・99式襲撃機
	11月下旬	第30教育飛行隊 実用機課程 修了 (熊本県 菊池飛行場)	
	12月初旬	第23教育飛行隊(第15353部隊) 配属 (満州国 平台飛行場)	錬成教育 ・99式襲撃機
	昭和20年 (1945年)	3月8日	と号要員(特攻隊員)に選ばれる
4月2日		満州国 平台飛行場を出発	
4月2日 ~11日		奉天→平壤→大邱→目達原飛行場(佐賀県)に前進(目達原には4月7日~11日まで滞在し、西往寺に宿泊) 4月5日に第6航空軍の指揮下に入り第102振武隊となる	
4月11日		目達原飛行場から万世飛行場(鹿児島県)に前進(飛龍荘に宿泊)	
4月12日		万世飛行場から出撃(午前11時40分)し、沖縄周辺洋上で特攻戦死(19歳)	

表2 第102振武隊 (第1降魔隊)

氏名	出身期	状況	出撃地 (出撃日)
天野 重明少尉	幹候7期	特攻戦死	万世 (4/12)
小松 啓一少尉	特操1期	特攻戦死	万世 (4/12)
竹腰 肇少尉	特操2期		
安部 静彦少尉	特操2期	特攻戦死	万世 (4/12)
佐藤 勲曹長	航養8期	特攻戦死	万世 (4/12)
横山 庫次軍曹	航養14期	殉職	
猪瀬 弘之軍曹	航養14期	特攻戦死	万世 (4/12)
原田 甲子伍長	航養14期	特攻戦死	万世 (4/12)
中島 昭造伍長	少飛14期	特攻戦死	万世 (4/12)
一木 寅彦伍長	少飛15期	特攻戦死	万世 (4/12)
瀧本 恵之助伍長	少飛14期		
山口 知三郎伍長	少飛14期	特攻戦死	万世 (4/28)
小関 真二伍長	航養14期	特攻戦死	万世 (4/12)
福浦 忠正伍長	少飛15期	特攻戦死	万世 (4/12)
金澤 富士雄伍長	少飛14期	特攻戦死	万世 (4/12)

※階級は出撃時

三、第百二振武隊 (第一降魔隊)

昭和二十年三月、天号作戦に向けて第二次編成された六十九隊のうちの一隊である。第二航空軍が編成担任となり、と号第百二隊、百九隊の八隊が編成され、軍司令官山田乙三大将により第一、八降魔隊と命名された。

第一降魔隊(と号第百二隊)、第二降魔隊(と号第百三隊)、第三降魔隊(と号第百四隊)は平台飛行場で錬成教育を行っていた第二十三教育飛行隊の教官・助教・生徒から編成された。

第一降魔隊は天野 重明少尉を隊長とする総勢十五名で飛行機は九九式襲撃機であった。

四月五日に第六航空軍の指揮下に入り第百二振武隊と名称が変わったが、隊員たちは最期まで第一降魔隊を使っていた。

四月十一日、十二日にかけて万世飛行場に前進し、最大規模の攻撃となった第二次航空総攻撃に参加した。

四、遺品として保管されてきた軍事郵便

特攻戦死した猪瀬少尉の遺品は寄贈者の手紙によると、本人が身のそばにおいて使用していたもの、匂いが残る貴重な品々として、それこそ本人そのものとして大切に保管されてきた。

長男を失った父親は、遺品を猪瀬家の宝物として整理し、桐の箱に丁寧に仕舞って保管していた。それを愛しむ様子を寄贈者は目にしている。その中に所持品を始め、八十七点の葉書、十四点の手紙が納められていた。

葉書は未使用のものや家族間でやり取りしたものもあるが、半数以上は猪瀬少尉が家族に送ったものであった。遺書として書かれた手紙は封筒と便箋が別にされ、何通も一緒にまとめて綴られていた。目達原で交流を持った地元の方々からいただいた手紙もあり、隊員の様子や言動、もてなしの状況が記されている。

これらも遺族にとってかけがえのない情報だったことが伺える。猪瀬少尉に関する葉書・手紙を一覧にしたのが表3である。

この中には他者が書いた関連の深い葉書・手紙も含めてある。

封筒がなく便箋だけとなっている手紙、消印のない軍用葉書は内容の精査と猪瀬少尉の経歴、日付が判明している葉書文面との比較検証により書かれた時期を推測し、表に含めた。

なお、区市町村名の後ろの住居表記は筆者の判断で伏せ、写真については画像処理を行った。



写真2 木箱に納められていた遺品

表3 猪瀬少尉に関する葉書・手紙一覧(1)

【葉書】

番号	日付	差出人・住所	受取人・住所	備考
葉書1	昭和18年 1月18日(消印)	猪瀬 弘之 滝野川区	猪瀬 光哉 仙台市	
葉書2	昭和18年 2月5日(消印) 2月4日(表書)	猪瀬 弘之 東京市滝野川区	後藤 和世 宮城懸仙台市	
葉書3	昭和18年 2月26日(消印)	猪瀬 弘之 東京都滝野川区	猪瀬 光哉 宮城縣仙台市	
葉書4	昭和18年 3月27日(消印) 3月27日(表書)	猪瀬 和世 滝野川区	猪瀬 光哉 仙台市	速達
葉書5	昭和18年 4月22日(消印)	後藤 和世 東京市滝野川区 猪瀬方	猪瀬 光哉 宮城縣仙台市	
葉書6	昭和18年 5月27日(消印)	後藤 和世 東京市滝野川区 イノセ方	猪瀬 光哉 宮城縣仙台市	
葉書7	昭和18年 10月2日(消印) 10月2日(表書)	猪瀬 弘之 都内滝野川区	猪瀬 光哉 宮城縣仙台市	速達
葉書8	昭和18年 10月18日(消印)	猪瀬 弘之 滝野川区	猪瀬 光哉 宮城縣仙台市	
葉書9	昭和18年 10月23日(消印) 10月21日(表書)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊一班	猪瀬 光哉 宮城縣仙台市	
葉書10	昭和18年 10月23日(消印) 10月21日(表書)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊一班	猪瀬 ひな 東京都滝野川区	
葉書11	昭和18年 12月3日(消印)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書12	昭和18年 12月11日(消印)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書13	昭和19年 1月3~4日(推測)	猪瀬 弘之 滝野川区	猪瀬 ひな 宮城県仙台市 後藤 幸次郎様方	正月休暇で 帰省中に発信
葉書14	昭和19年 1月7日(消印) 1月5日(表書)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書15	昭和19年 1月8日(消印) 1月6日(表書)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書16	昭和19年 1月18日(消印)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書17	昭和19年 1月23日(消印)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書18	昭和19年 1月24日(消印)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	速達
葉書19	昭和19年 2月1日(消印)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四区隊	猪瀬 ひな 東京都滝野川区	
葉書20	昭和19年 2月24日(消印)	猪瀬 弘之 千葉県木下局私書箱二号 第十四期操縦生	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	

表3 猪瀬少尉に関する葉書・手紙一覧(2)

【葉書】

番号	日付	差出人・住所	受取人・住所	備考
葉書21	昭和19年 3月31日(消印)	猪瀬 弘之 仙台市仙台養成所 第十四区隊第一区隊第一班	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書22	昭和19年 4月12日(消印)	猪瀬 弘之 仙台市霞目仙台陸軍飛行学校 仙台分教所第一区隊	猪瀬 ひな 東京都滝野川区	
葉書23	昭和19年 5月11日(消印)	猪瀬 弘之 仙台市霞目陸軍飛行学校 仙台分教所第一区隊	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	検閲の墨塗り あり
葉書24	昭和19年 5月30日(消印)	猪瀬 弘之 仙台陸軍飛行学校 仙台分教所第一区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	速達
葉書25	昭和19年 6月10日(消印)	猪瀬 弘之 仙台市	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	
葉書26	昭和19年 6月25日(消印)	猪瀬 弘之 仙台市	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	
葉書27	昭和19年 7月6日(消印)	猪瀬 弘之 仙台陸軍飛行学校 仙台分教所第二区隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	速達
葉書28	昭和19年 7月30日(消印)	猪瀬 弘之 熊本縣熊本市驛前 惣進館内	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書29	昭和19年 8月2日(消印)	猪瀬 弘之 熊本縣菊池郡泗水村 西部百四部隊松下隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書30	昭和19年 8月30日(消印)	猪瀬 弘之 熊本縣菊池郡泗水村 西部百四部隊松下隊	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	
葉書31	昭和19年 9月8日(消印)	猪瀬 弘之 熊本縣菊池郡泗水村 西部百四部隊松下隊	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	
葉書32	昭和19年 10月5日(消印)	猪瀬 弘之 熊本縣菊池郡泗水村 西部百四部隊松下隊	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	
葉書33	昭和19年 10月11日(推測)	川島 武男(猪瀬 弘之) 熊本縣熊本市川崎町	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書34	昭和19年 11月1日(消印)	猪瀬 弘之 熊本縣菊池郡泗水村 西部百四部隊松下隊	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	
葉書35	昭和19年 11月21日(消印)	猪瀬 弘之 熊本縣菊池郡泗水村 西部百四部隊松下隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書36	昭和20年 1月初旬(推測)	猪瀬 弘之 満洲国龍江省鎮東郵政局気付 第15353部隊 笠村隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	一連の内容を 2枚に分けて 書いている
葉書37	昭和20年 1月初旬(推測)	猪瀬 弘之 満洲国龍江省鎮東郵政局気付 第15353部隊 笠村隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書38	昭和20年 1月(推測)	猪瀬 弘之 満洲国龍江省鎮東郵政局気付 第15353部隊 笠村隊	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書39	昭和20年 1月(推測)	猪瀬 弘之 満洲国龍江省鎮東郵政局気付 第15353部隊 笠村隊	猪瀬 光哉 大日本帝國 東京都滝野川区	

表3 猪瀬少尉に関する葉書・手紙一覧(3)

【葉書】

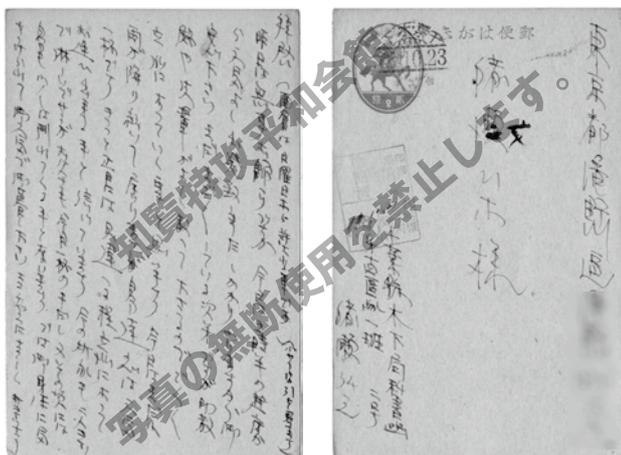
番号	日付	差出人・住所	受取人・住所	備考
葉書40	昭和20年 1～3月(推測)	猪瀬 弘之 満洲国龍江省鎮東郵政局気付 第15353部隊 笠村隊	猪瀬 光哉 大日本帝國 東京都滝野川区	
葉書41	昭和20年 1～3月(推測)	猪瀬 弘之 満洲国龍江省鎮東郵政局気付 第15353部隊 笠村隊	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	
葉書42	昭和20年 4月11日(消印)	猪瀬 弘之 佐賀県神埼郡東脊振村横田 西往寺内	辺見 よね 東京都淀橋区 大木兼吉様方	
葉書43	昭和20年 4月11日(消印)	猪瀬 弘之 佐賀県神埼郡東脊振村横田 西往寺	中山 次郎 東京都滝野川区	
葉書44	昭和20年 4月12日(消印)	猪瀬 弘之 佐賀県神埼郡東脊振村横田 西往寺内	辺見 米 東京都淀橋区 大木兼吉様方	
葉書45	昭和20年 4月12日(消印)	猪瀬 弘之 佐賀県神埼郡東脊振村横田 西往寺内	中山 次郎 東京都滝野川区	
葉書46	昭和20年 4月12日(消印)	猪瀬 弘之 鹿児島県川辺郡加世田町 飛龍荘内	猪瀬 光哉 東京都滝野川区	
葉書47	昭和20年 4月12日(裏面)	無記名	無記名	

【手紙】

番号	日付	差出人・住所	受取人・住所	備考
手紙1	昭和19年 5月25日頃(推測)	猪瀬 弘之 ※親友に頼んで渡す旨の記述有り	猪瀬 光哉	
手紙2	昭和19年 9月下旬(推測)	猪瀬 弘之 ※封筒がないため不明	猪瀬 光哉?	封筒なし
手紙3	昭和19年 10月中下旬(推測)	猪瀬 弘之 ※封筒がないため不明	猪瀬 榮子	封筒なし
手紙4	昭和19年 11月10日頃(推測)	猪瀬 弘之 ※封筒がないため不明	猪瀬 榮子	封筒なし
手紙5	昭和19年 12月初旬(推測)	猪瀬 弘之 ※封筒がないため不明	猪瀬 光哉	封筒なし
手紙6	昭和20年 1～3月(推測)	猪瀬 弘之 満洲国龍江省鎮東郵政局気付 第15353部隊 笠村隊	猪瀬 光哉	
手紙7	昭和20年 4月7日(文面)	猪瀬 弘之	猪瀬 光哉/猪瀬 ひな/猪瀬 榮子	遺書
手紙8	昭和20年 4月10日(文面)	猪瀬 弘之	猪瀬 光哉/猪瀬 ひな/猪瀬 榮子	遺書
手紙9	昭和20年 4月10日(文面)	猪瀬 弘之	猪瀬 光哉/猪瀬 ひな/猪瀬 榮子	遺書
手紙10	昭和20年 4月24日(消印)	南 スガ 佐賀県神埼郡東脊振村字横田西往寺	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	目達原 関係者
手紙11	昭和20年 4月25日(消印)	安部 千代乃 福岡県八幡市	猪瀬 源助 栃木縣下都穂積村大字石之上	目達原 関係者
手紙12	昭和20年 4月27日(消印)	中村 常一 佐賀県神埼郡東脊振村	猪瀬 源助 東京都滝野川区	目達原 関係者
手紙13	昭和20年 10月12日(消印)	甲 初枝 佐賀県神埼郡東脊振村	猪瀬 榮子 東京都滝野川区	目達原 関係者

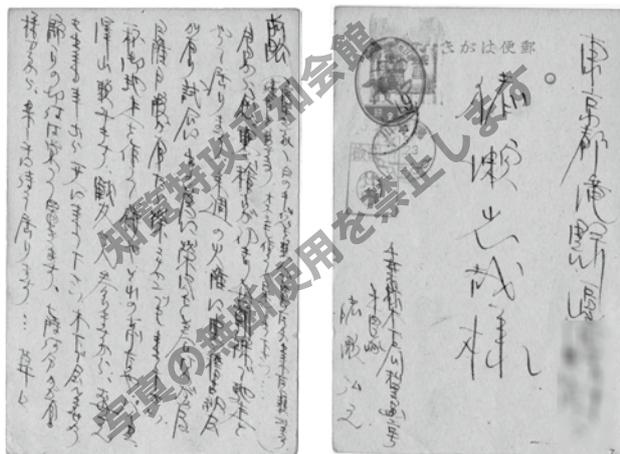
五. 猪瀬少尉が家族に宛てた葉書・手紙

写真3 葉書10



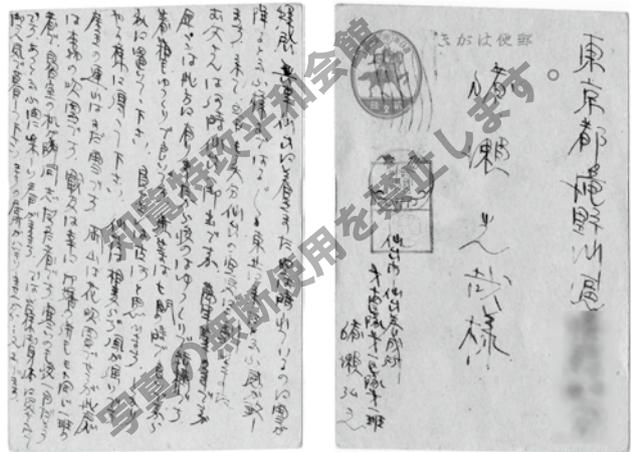
拜啓（面會は日曜日なら許される事です）（小サイ字引を頼みます）
 昨日は無事お歸りですか 今日五時半の起床か
 ら元気よく出発致しました しつかりやりますから御
 安心下さい まだまごまごしている次第ですが助教
 殿や先輩がよく教へて下さるのでどんどん
 立派になっていく事と思います 今日はまだ小
 雨が降り続いて居りますが自分達の心は元気
 一杯です きつと正月には見違へる程立派になって
 お逢ひ出来る事と信じています 今の所家も二人きり
 で淋しいでせうがお父さんも今月一杯の事だし又その頃には
 自分も少しは馴れてくる事と存じます。では御身体に気
 をつけられて御元気で御暮し下さい エコちゃんによるしく
 サヨウナラ

写真4 葉書17



前略（昌チャン家へ白の手袋を頼んで置いたので出来たら頼みます）
 健胃を頼みます。オスシも作って（白米）来て下さい・・・）
 今日から愈々寒稽古が初まり、毎朝裸で馳走を
 やって居ります。来週の火曜に寒稽古納会
 が有り試合に出る爲に榮容を養なうが爲
 日曜日暇が有ったら榮コチャンでも来て下さい。
 一杯御馳走を作って、餅や、そのあげたのや、パイカス、
 澤山頼みます。戦友二人参りますから、お母さん
 も出来る事なら共に来て下さい。木下で会ひませう。
 歸りの切付は買って置きます。七時何分のが有る
 様ですから、楽しみに待つて居ります・・・草々

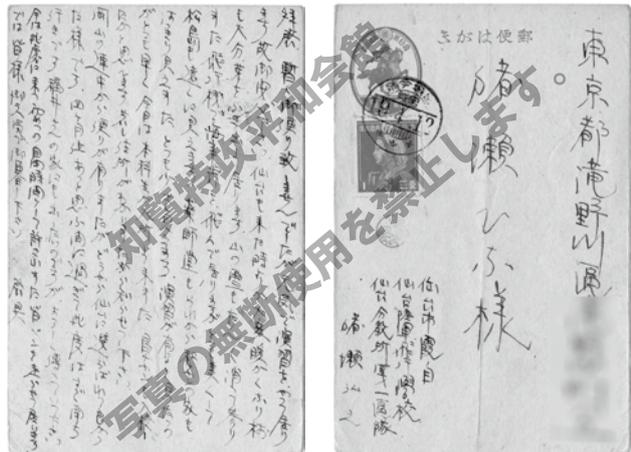
写真5 葉書21



拜啓 無事仙台に着きました。空は晴れているのに雪が降ると云ふ様子ではるばる東北に来たと云ふ感が致します。来て、五日もう大分仙台の空気にも馴れました。お父さんは何時仙台へ御出ですか。万年筆の事ですが金ペンは此方に有りましたから後のはゆつくりで結構です。箸箱もゆつくりで良いです。旗等は、七月の時が良いですから家に置いて、下さい。昌チャンは古河と思ひます。しっかりやる様に傳へて下さい。仙台は相変わらず風が強いです。座王の連山はまだ雪です。岡山は花吹雪でせうが此處は本物の吹雪です。戦友は幸に印旛の併もモト同じ一班の者で、自習室の机が隣同志だった者です。寒いのも後一月だそうです。あつと云ふ間に楽しい春が来ます。では皆様御身体に気をつけて御元気で暮して下さい。コチラの居所がハッキリしませんから・・・

又出します。

写真6 葉書22



拜啓 暫く御便り致しませんでした。元気で演習をやつて居ります。故御安心下さい。仙台も来た時より大変暖かくなり桜も大分、芽をふき出して居ります。山の雪もだんだん消へて参りました。飛行機で海岸線を飛んで居りますがとても美しく、松島も遠くに見えます。薬師堂もそれから和チャンの家もはつきり見えました。とても小さく見えます。演習が有ると日のたつのがとても早く今日は本科生が入所して来ました。昌チャンも入校したかと思ひます。若し住所がわかりましたら知らせして下さい。岡山の連中から便りが有りましたがどうやら仙台に選ばれて良かった様です。四ヶ月位あつと思ふ間に過ぎて此度はすぐ南方行きです。福井さんの家にも出したのですが、よろしく傳へて下さい。今は此處に来て初めての自由時間として許されました。皆ペンを走らせて居ります。では皆様御元気で御暮して下さい。 啓具

写真7 葉書29



前略

海一つへだった九州から御便りします。

本日無事入隊致しました。今迄の者

達と一諸(緒)です。仙台より美しい所です。

では、又元気で張り切ります。皆様による

しく。御身体に気をつけられ御元気で

御暮し下さい。

草々

写真8 葉書30



拜啓 御便り昨日有難く拜見致しました

敵機が来ましたが自分は元気ですから安心し

て下さい。姉さんが四国の途中で逢った時は

眼を光らせながら空を見上げて居りました。今後

も毎日の様に来る事でせう。昌一君無事入隊

の様子、もう馴れた事と思ふので便りを出そうと思

つて居ります。東京も暑いのでせう。此處も

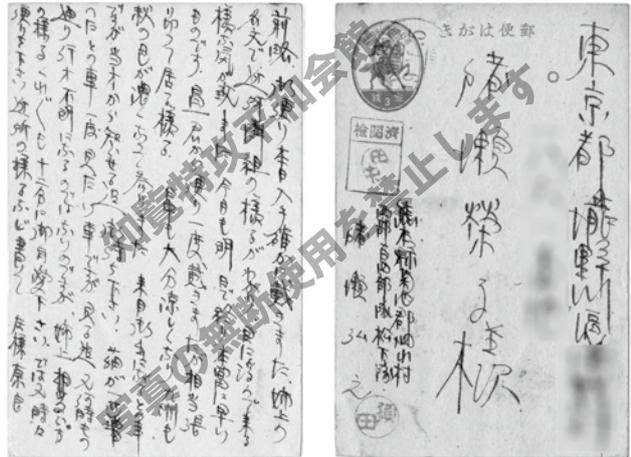
暑いです。其の中で一日一日毎に磨かれて参ります

では十二分に御身体に気をつけられて、自分の分迄頼み

ます。便りを澤山下さい では又

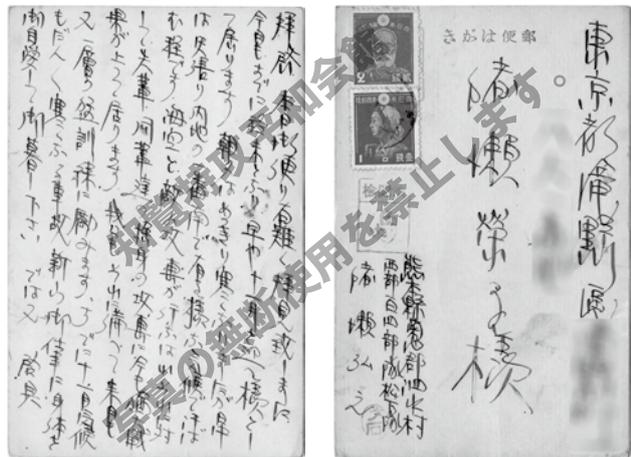
左様奈良

写真9 葉書32



前略 御便り本日入手確かに戴きました。姉上の名文で近所隣組の様子がわかり、目に浮んで来る様な気が致しました。今月も明日で終り本當に早いものです。昌一君から便り一度戴きましたが相当張り切って居る様子。日中も大分涼しくなり九州も秋の色が濃くなつて参りました。来月御出になるとの事ですが当方から知らせる迄御待ち下さい。猫が一匹増へたとの事、一度見たい事ですが見る迄又何時もの通り行方不明になるのではないのですが、姉上相変わらずの様子くれぐれも十二分に御自愛下さい。では又時々便りを下さい。近所の様子など書いて 左様奈良

写真10 葉書34



拜啓 本日御便り有難く拜見致しました。今月もすでに終末となり早や十一月を迎へ様として居ります。朝夕はめっきり寒くなりましたが日中は矢張り内地の一番南で有る様な気候で汗ばむ程です。海空と、敵の攻撃が行なはれそれに対して先輩、同輩達の捨身の攻撃に今も猶大戦果が上つて居ります。我々もそれに備へて来月も又一層の猛訓練に勵みます。すでに十一月気候もだんだん寒くなる事故 新しい御仕事に身体を御自愛して御暮し下さい では又 啓具

拜啓

本日姉上からの御便り戴きました。

不幸にも「少飛」の生徒が不時着、亡くなったので、
 なくなりがっかりした所 久方振りの手紙で喜こんだのですが、
 養成所の時の様にあやふく和世姉さんの二の舞をする所だったので有
 りませんか。姉弟三人の所即ち一人を失ひ わずか家名をつぐ者二名し
 か居らず併も男の自分が操縦者として家を出ている現在、どんなに
 家の事を考えているかわかりません。度々の事故で自分の生涯も約束され
 なくなりましたが、でも病身では有るが姉さんが一人家に残っている事でどんな
 に安心していただけるかわかりません。その姉上が病重くなったなら
 外地ならいざしらず、たかが海一つの九州に居る事故知らせて下されば
 すぐ飛んで歸へります。かへつて知らせて下されば萬一の事が有つたら
 嘆きは二重の事です。今迄に歸へつた者二人居る位現在区隊長
 でさへ実父の病気の爲歸郷して居られます。併し家に歸へりたいの
 では有りません 姉弟二人の仲では無理もないでは有りませんか。
 併し幸に良くなったから良いもの、
 姉上にもっと強く生きてもらはなければ安心して暮せません
 自分は残念ながら死生観で固まった人間です 自分の行ふべき務め
 を姉上にまかせなければならぬかも知れません。決して其の爲だけでも
 なく、丈夫でない自分でさへが速度のすごい飛行機に半日中乗っている
 のです。食物だって、井に一杯併し病氣一つしないでピンピンしています
 いくら東京とて米がない事はないでせう。父上が居られるのですから
 そんな事は安心ですが病氣だけはどうする事も出来ない事だから、決して
 病に負けない様にしっかり身体を丈夫にして皆さん暮して下さい。
 そうすれば自分だって安心して暮せます。今から、悔いても仕方が
 有りませんが、自分の男で併も長男の努が今出来ないのが残念です。
 併し現在の戦局を考へて大義の爲に我慢して下さい。次々に
 戦友の散り行くを眼前に見 だんだん何時でも死ぬる様な人
 間になって来ました。

明日、事故有りたる爲歸京する友達が居るのでそれに頼み
 ました。

先月卒業も夢となり今猶こうやって暮して居ります
 併し今迄とは違ひ修業者でなく一人前として他の組とは
 違ひの教育を受けて居ります。第○次○○要員○○優秀者
 ・・・一寸違ふでせう 毎日毎日自分の体重の何倍かのGヲ受
 けてふらふらになりながら併も元気で暮して居ります
 朝夕急に冷へて寒い位です 九州がこうだから東京
 はさぞ寒い事と思つて居ります。

先日東京が空襲されたとの事ですが何も変わった事は
 ないでせう。近所の様子も唯オクロサン？が鼻を高
 くしている位のもので毎日平和の事と思ひます
 此頃じゃなく、毎日、家に歸へつた夢ばかり、だから
 必ずや我々の念願はかなふで有らうと信じて居ります

昌一兄が南に行くとの事、それは何かの間違ひだらうと
 思ひます。今日空襲が有りました。ノコノコと出ましたが
 不幸か又幸か知りませんが逢はず、生きて居ります。

東京食物はどうですか 熱い肉ナベか何かを喰べたいのですね
 我々の生活が初まつてから一年 今はすでに 印旛の者数人を
 数える位 自分の所では 三人 しか居りません。

満洲の者は大分 任務にたはれた様子、仙台の後藤教官も
 又亡くなられました 八月頃ですが、
 でも、養、出身の者は一人もなく元気です。

今月で終りでせう後二十日餘です。一家そろつて、楽しい
 一日を送りたいものです。何も書く事はないのですが一筆取
 りました。直接任地に行く様な事もないでせう。

残餘の日数、注意して元気で暮します 明日から夜間戦闘
 です。では、又東京の皆様によるしく、古河の勝男君に暇が
 有つたら出して下さい。毎日の様にしてますから、
 榎本の部隊、逢つた時間いて知らせして下さい。誰も彼も勝つ爲
 に暮して居ります 豈己のみならんや・・・です。

杉本家によるしく。
 エートもう書く事ないかな・・・では 皆様寒さの中
 御元気で暮して下さい

拜啓

生れて内地を離れた事のない自分が愈々懐しい祖国
日本と別れなければならない日を明日にひかへて下関の
或る旅館の一室で書いて居ります 顔ぶれは今迄の者
全部です 二十六日に終業式を終へてその後休暇をくれ
るかと思しみにしていた所 毎日毎日つまらぬ日を無意味に
三四日暮し それ迄は朝鮮に転属になるのでしたが三十日
命令下り急に朝食後出発致しました。その時姉上からの
御便りを戴き 胸一杯になりその感激のまゝ出て来ました。
家中で自分の歸へりを沢山の御馳走を作って待っていて下さ
る様子を考へる 今からでも飛んで歸へりたいのですが家を
離れてから一年の生活が悲しさの内にも今度の新しい生活
に未来を持たせてくれるのでそのさびしさをもうなぐさ
めてくれます 本當の事を書くとも今度の任地が中満洲
の○○○なので区隊長殿が自分の身体を心配して
他の組と共に朝鮮に行く様に云はれたのですが今迄共に
修業していた者の中自分一人がのこされると云う事はとて
も我慢が出来ません 同じに入隊したのです彼等がやって
自分が出来ないこと云ふ事は有りません。別に 区隊長に云ひ
ませんでしたが結局皆と共に行く事になりました
朝鮮に行った方が幸か 或は満洲の方が良いか、わからない
けれど、どうせ任務にたはれるなら新しい物の前に散った
方が得です 日中二〇度もある九州から急に満洲に
行くのですから一寸の覺悟では駄目です

併し自分には御両親の寫眞が肌身について守って
いてくれるし家では皆様が日夜神かけて祈って
いられるので決して不注意により事故をおこす
様な事は有りません どうか御心配なさらぬ様・・・
自分も益々自愛して暮します

それよりか皆様方が くれぐれも空襲下本當に
心から御注意されて、決して病氣などなさらぬ様
もしもの事あれば自分がどうして良いかわかりません
天然の事故ならばともかくも防げる事故にはどう
か注意して下さい くりかへしますが 自分の事は心配
なさらぬ様に 自分ももうじき二十一才です併も
將來父上の後をつぐべき者、いつも云はれている様
になにくそと 頑張ります・・・

家に歸へれず残念でしたが それも時局故、あきらめま
した。又くるべき時に来ます

それから糸と針、マフラ（長ければ長い程良し）

クビマキ（エリマキ）（絵）——毛糸でまるく作って下さい 長く

毛糸の腹巻、送って下さい 任地についたら

すぐ知らせます故 では又 十一時です

明日は朝早く出ます では姉上も特に

気をつけられて、母上も餘り無理をしない様に

父上は家の大黒柱です 十分御注意して下さい

では又 朝鮮から出します

祖国日本と共に皆様の 御長寿を神かけて

祈ります。 オヤスミナサイ。

手紙をたくさん下さい。

弘之

写真15 葉書36



時々の報道で三日毎に空襲に見舞はれていられる様子、仙台の戦友石谷の家もやられたそうですぐそばの豊島区の事ですから心配をして居ります。いくら敵の爆撃が下手でも爆発しないと云ふ事は有りませんから注意すると云つても相手が飛行機の事です。唯御無事を御祈り致す次第で有ります。姉上其の後如何ですか。寒さ益々加はります故十二分に御自愛の程。父上母上も自分の事は心配しないで毎日安らかに御暮し下さい。近所の正月風景が頭に浮んで参ります。着満した時に基地で大木達にすれ違ひに幸に逢ひました。わずか二時間位の間でしたがどんなに嬉しかった事が御察し下さい。

1.

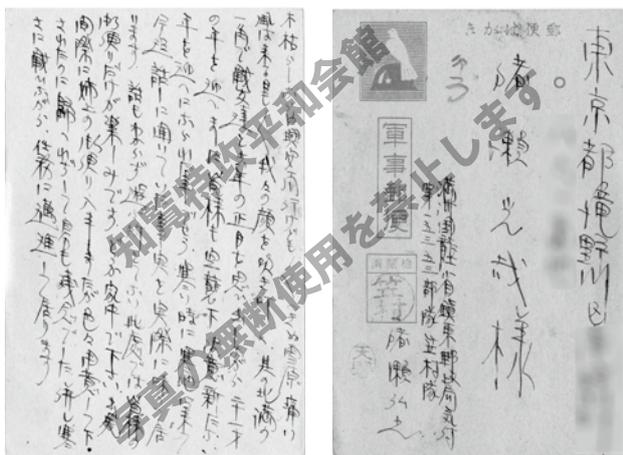
写真16 葉書37



御互が何時神と召されるかわからない事です故その再会は夢の様で有り我々のみが知り得る嬉しさでした。昌一君はどうしました。或は休暇で歸へったかも知れませんが、家を離れて、すでに〇年、初めて外で迎へる正月併も想像もなかった北満の地。今年の前途を思はせるに十分で有ります。どうか内地でも、自分が安心して生活出来る様に御無事で御暮し下さい。二日間休務を許され、戦友達は思ひ出に花を咲かせて居ります。東南東から昇つて南に落ちる様な太陽も廣野の果てに落ちんとして居ります。さあ初夢はなんでせうか？では北満からサヨナラ！時有りて咲き落ちるとても桜花何か惜まん大和魂！

2.

写真17 葉書38



木枯らしならぬ興安南行けども行けどもつきぬ雪原痛い
 風は来る日も来る日も我々の顔を吹き叩く、其の北満の
 一角で戦友達と去年の正月を思ひ出しながら二十一才
 の年を迎えました。皆様も空襲下決意新たな
 年を迎へになられた事でせう。寒い時に寒地に来て
 今迄話しに聞いていた事実を実際に味つて居
 ります。話もわからず遊ぶ所とてない此處では皆様の
 御便りだけが楽しみです。どうか家中で下さい。出発
 間際に姉上の御便り、入手しましたが色々用意して下
 されたのに歸へれずして自分も残念でした。併し寒
 さに戦ひながら任務に邁進して居ります。

写真18 葉書39



昨日から急に風が強くなり痛い風
 が顔をなぐって参ります 今日
 日曜日、休務でも出る所もなく、
 生れて初めて戴いた慰問袋を開
 いて戦友と雑談に花を咲かせ
 ました 一同で作ったスケート場は
 自分の様な名人で一杯で?..
 大変な風景です。今年の正月
 は如何でした。隔日の空襲で
 男手の無い家としては大変な事
 でせうが頑張つて下さい。もう当
 地にも馴れ、満洲臭くなりました
 姉上もしっかり身体を鍛えられ、家を
 守って下さい。遥かな満洲より皆様
 の御幸福を御祈り致します

六．軍事郵便の実例

軍事郵便は、「戦時または事変の際に戦地またはこれに準ずる所にある軍人軍属などが差出した郵便物や、その反対にそれらの人々に宛てた郵便物をさす。」(財満二〇一〇年、三一頁)と定義されている。

軍に所属する者が出す郵便物(葉書・手紙・小包など)は全て軍事郵便となるが、本稿では検閲を通さず、郵便制度のみで送られるものを普通郵便と称する。

葉書・手紙の発信日を中心に纏めたのが表4である。郵便局の消印に捺印されている引き受け日を発信日とした。軍用葉書で出されたものは消印がないので猪瀬少尉の経歴と宛名に記されている所属部隊を照らし合わせ、文面を手掛かりに日付・時期を推測した。

父親が仕事で遠方に赴任していた時期に中学卒業を控え進路の相談をしているものから、航空の道に進み、厳しい訓練を受け、戦死するまでのほぼすべての時期のやり取りが確認出来る。そのことから、猪瀬少尉が家族に宛てた葉書・手紙の大部分が残されていると考えられる。

表3では寄贈された遺品の中から葉書四十七点、手紙十三点を抽出したが、これ以降の文章では軍事郵便の状況を明らかにするため、猪瀬少尉が書いたもので、昭和十八年十月二十日、印旛地方航空機乗員養成所に入所以降の葉書三十九点、手紙九点を対象として紹介する。

(一) 郵便物の頻度、送付先

印旛地方航空機乗員養成所時代の葉書が十二点、仙台地方航空機乗員養成所時代のものが葉書七点、手紙一点、第三十教育飛行隊時

代ものが葉書八点、手紙三点、第二十三教育飛行隊時代のものが葉書六点、手紙二点、第二振武隊時代のものが葉書六点、手紙三点となる。一か月の間に概ね二通ほどを送っている。また、所属と赴任先が変わっても出す頻度に大きな違いは見られない。

葉書の宛先は父親二十一点、母親四点、三女九点、家族以外四点、無記名一点となっている。父親宛てのものが多く、文中に「皆様」と書かれたものもあるので、実質は家族に宛てたものも含まれている。

(二) 消印の押印状況

印旛及び仙台地方航空機乗員養成所、第三十教育飛行隊から出された軍事郵便は検閲印があるものの郵便局の消印が捺印され、発信局・発信日が確認出来る。それに対し満州の第二十三教育飛行隊から出されたものは軍用葉書が使用されているので郵便局の消印はなく、発信局・発信日が表記されていない。

昭和十九年七月二十一日に陸軍乙種予備候補生に採用され階級を与えられ陸軍の第三十教育飛行隊へ入営しているので軍用葉書が使用できれば料金は免除されるはずだが、この時でも通常の郵便葉書を使い郵便料金を支払っている。そして、料金の改正があれば新しい料金との差額分の切手を張っている。

なお、第二種(通常葉書)料金の改正履歴は次の通りである。

昭和十二年四月一日より 二銭

昭和十九年四月一日より 三銭

昭和二十年四月一日より 五銭

昭和十九年から昭和二十年にかけて葉書の料金が年度ごとに値上がりしているので消印が読み取れなくても、切手、葉書の郵便料金により、大まかな発信時期を推測することが出来る。

表4 葉書・手紙の発信日一覧

年	月	葉書（発信日）	葉書（発信日不明）	手紙（発信日）	所属
昭和18年 (1943年)	1月	1月18日（葉書1）			印旛地方航空機乗員養成所
	2月	2月5日（葉書2）			
		2月26日（葉書3）			
	3月	3月27日（葉書4） ^{※1}			
	4月	4月22日（葉書5） ^{※1}			
	5月	5月27日（葉書6） ^{※1}			
	6月				
	7月				
	8月				
	9月				
	10月	10月2日（葉書7）			
		10月18日（葉書8） 10月23日（葉書9） ^検 10月23日（葉書10） ^検			
11月					
12月	12月3日（葉書11） ^検				
	12月11日（葉書12） ^検				
昭和19年 (1944年)	1月	1月3～4日（葉書13）			仙台地方航空機乗員養成所
		1月7日（葉書14） ^検			
		1月8日（葉書15） ^検			
		1月18日（葉書16） ^検			
		1月23日（葉書17） ^検			
		1月24日（葉書18） ^検			
	2月	2月1日（葉書19） ^検			
		2月24日（葉書20） ^検			
	3月	3月31日（葉書21） ^検			
	4月	4月12日（葉書22） ^検			
	5月	5月11日（葉書23） ^検		5月25日頃（手紙1）	
		5月30日（葉書24） ^検			
	6月	6月10日（葉書25）			
6月25日（葉書26）					
7月	7月6日（葉書27） ^検				
	7月30日（葉書28）				
8月	8月2日（葉書29） ^検				
	8月30日（葉書30） ^検				
9月	9月8日（葉書31） ^検		9月下旬（手紙2）		
10月	10月5日（葉書32） ^検		10月中下旬（手紙3）		
	10月11？日（葉書33）				
11月	11月1日（葉書34） ^検		11月10日頃（手紙4）		
	11月21日（葉書35） ^検				
12月			12月初旬（手紙5）		
昭和20年 (1945年)	1月	1月初旬（葉書36,37） ^{軍検}	1～3月（葉書40） ^{軍検} 1～3月（葉書41） ^{軍検}	1～3月（手紙6） ^{軍検}	第三十教育飛行隊
		1月？日（葉書38） ^{軍検}			
		1月？日（葉書39） ^{軍検}			
	2月				
	3月				
	4月	4月11日（葉書42） ^軍		4月7日（手紙7）	
		4月11日（葉書43） ^軍		4月10日（手紙8）	
4月12日（葉書44） ^軍			4月10？日（手紙9）		
4月12日（葉書45）					
4月12日（葉書46） 4月12日（葉書47）					

※1：他者が出した葉書（猪瀬少尉に関する文面あり）

Ⓜ：軍用葉書で出されたもの

ⓧ：検閲を受けたもの

【 仙台地方航空機乗員養成所 】

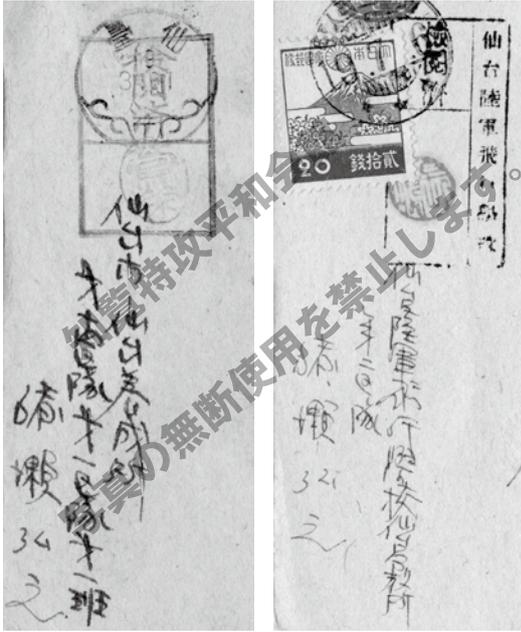


写真22
(葉書21)

写真21
(葉書27)

【 印旛地方航空機乗員養成所 】



写真20
(葉書19)

写真19
(葉書11)

(三) 検閲欄と検閲印の実例
 印旛及び仙台地方航空機乗員養成所は逓信省航空局所管の航空要員養成所であるので軍の施設ではないが戦時体制下、所長以下幹部職員のお多くは陸軍軍人が占めるようになり運営は陸軍方式で行われ

【 第二十三教育飛行隊 】

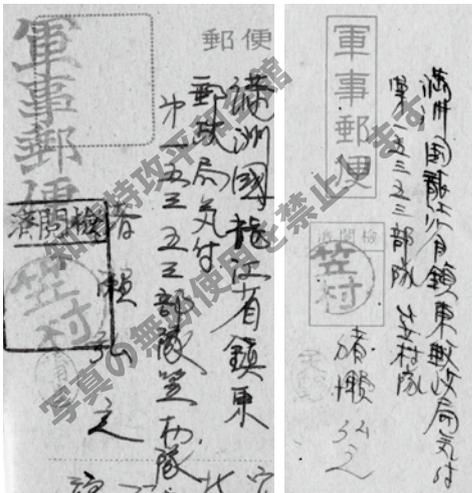


写真26
(葉書41)

写真25
(葉書37)

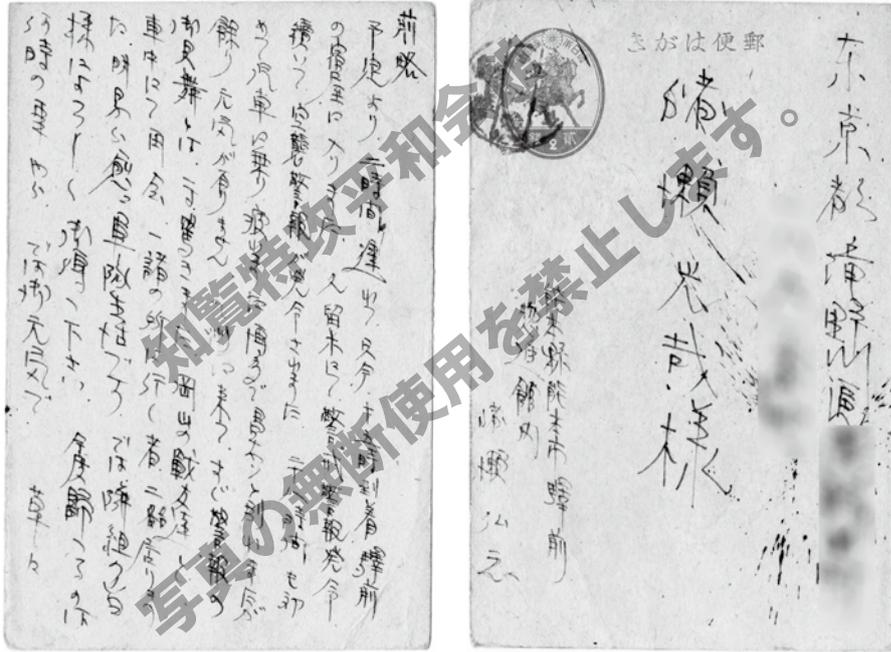
【 第三十教育飛行隊 】



写真24
(葉書32)

写真23
(葉書31)

ていた。
 そのようなことから、乗員養成所から出された郵便物も検閲印が押されている。葉書に捺印されている各養成所・教育飛行隊の検閲欄と検閲印は次の通り。



【実例1】写真27（葉書28）

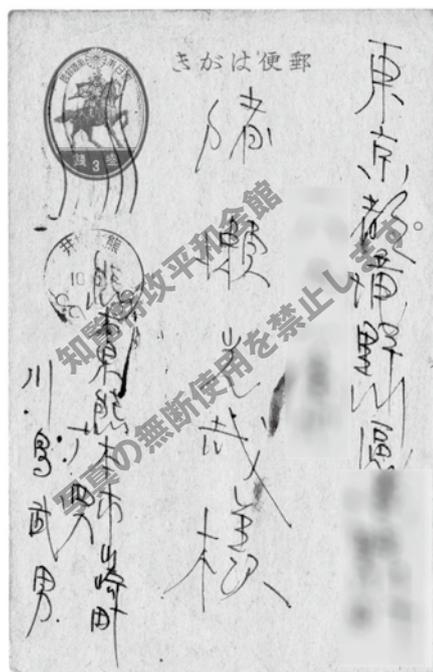
(四) 検閲を受けなかった郵便物の実例
 葉書二十九点のうち、二十八点が検閲を受けている。しかし、検閲を受けていないものも十一点あり、内容を精査すると次のような状況が推測できる。

差出人住所が「熊本縣熊本市驛前 惣進館内」となっている。裏面で「驛前の宿屋に入りました。」「二十八時間も初めて汽車に乗り、疲れました」「明日から愈々軍隊生活です」とあるように仙台地方航空機乗員養成所から第三十教育飛行隊（熊本県の菊池飛行場）への赴任途中で出されたものと考えられる。
 消印の受付局は二文字だがインクの文字が潰れて判読出来なかった。引き受け日は「19. 7. 30」となっている
 昭和十九年四月一日より料金改定が行われ第二種（通常葉書）は三銭に値上がりしているが料額印面が二銭の葉書を使用している。

前略
 予定より、二時間遅れて只今、十五時到着、驛前の宿屋に入りました。久留米にて警戒警報発令
 續いて、空襲警報が発令されました。二十八時間も初めて汽車に乗り、疲れしました。博多で昌チャンと別れましたが
 餘り元気が有りません。九州に来て、すぐ警報の御見舞とは、一寸驚きました。岡山の戦友達と、車中にて再会、一諸の所に行く者、二名居りました。明日から愈々軍隊生活です。では隣組の皆様によりしく御傳へ下さい。今度歸へるのは何時の事やら。では御元気で

草々

【実例2】写真28（葉書33）



拜啓、今月も十一日後十九日です。此の間入ったと思つたら、もうかと思ふと愈、来た時が来たと思ふ感があります。嬉しい様な恐ろしいやら。一昨日改整された列車時刻表を見て、一同で喜喜んで居ります。残念な事にすでに三人の友を失い併もそれが自分の所ばかりなので一時は本当に嫌になりましたが併し不注意では絶対に死にませんから安心して下さい。技も上手になり海を渡つて外地に行きました。一度は死ぬ様な思ひをしました。が姉さんの、あの小さいマスケットに勵まされて、どうやら生きて居ります。常に家の事が頭から離れません。訓練は他の所に比して又すぐく、併しそれだけ他の者に常に誇りを持っていられます。少しは何時でも死ぬ様な事な人間に出来て来たらしいです。予定によると三十日が卒業式。最低五日は規則として戦時でも有る事なのですから。まあ五分は大丈夫と思ひますが一日でも歸へれたら歸ります。歸へれても日数が無い時は何處かで逢ふ様にはからふ考へで居ります。朝夕すぐく寒くなりました。後十九日本当に早いものです。早く、ジャケットを着て、八幡様へ朝もやすめる様な時間の無い生活を一日でもしたいものです。疊の上で一時間でも良いから大の字になりたいものです。今度こそ最後ですから御馳走澤山頼みます。家に歸へつて着る様な服有りますか考へて下さい。噂によると、内地に残り助教との事です。併し噂です。末頃で結構ですから、時計修繕と眼鏡を買ふので、又送つて下さい。併し便りには金の事は書かないで、二十四中、四円使ひましたが、歸へる時に少しでも餘分に持つていたのです。貯金は八十円になりました。姉さんへ、あの小さいマスケットまだ有りますか。それから、白の絹で何とか「マフラ」出来ないうでせうか考へて下さい。是非ほしいのです。長い奴を。東京の方向にか変つた事でも有りますか。東京の便程嬉しいものは有りません。澤山下さい。昌チャンから便り有りますか。任官は十一月との事です。金を送れと云ふのでうまいものでも喰べていると思つては困ります。高リヤン玄米それに少量の日本米では腹がへつて困ります。配給だつて二月過ぎ、決してうまいものは食べて居りません。では三十日迄ふんばります。歸へれる様に祈つて下さい。福井の小父さんによるしく、左様奈良良（小ガワセデモイデス 併シヤミデ）（三十円）

（返事には此の便りの返事の様な事は書かないで）

差出人住所を「熊本県熊本市山崎町」とし、差出人を川島 武男としている。字体は他の資料に照らし合わせると猪瀬少尉のものと考えられる。

消印の受付局は熊本坪井、引き受け日は「□・10・□」となっている。料額印面は三銭なので昭和十九年（度）、裏面の文面から十一日に書かれたことが読み取れる。

最下部には「返事には此の便りの返事の様な事は書かないで」と家族に注意を伝えていることから、軍事郵便としてはばかれる内容を書いたと意識していることがわかる。外出中に出されたものと考えられる。

【実例3】写真43〜48（葉書42〜47）

特攻で出撃する前日・当日に書かれた六通の葉書。軍用葉書に切手を貼って普通郵便で出している。第九節で紹介する。

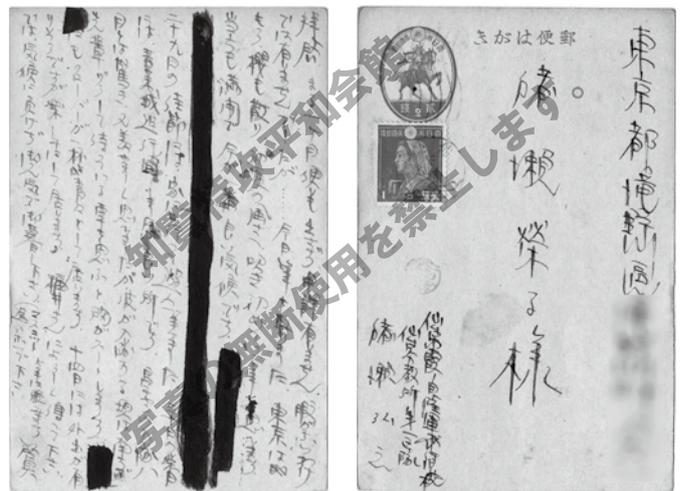
これらの実例を見ると、外地の満州国からは本来の軍事郵便の通りに出しているが、日本国内であれば、外出時等に普通郵便として出すことも可能であったことが伺える。そして、軍用葉書に切手を貼れば普通郵便として届けられている。

(五) 検閲による文面の塗りつぶしについて

葉書23は葉書三十九点のうち、唯一、検閲により一部の文面が塗りつぶされている。万年筆で書かれた文字を墨で塗りつぶしてあるが、墨に濃淡があるので二度塗り直したようである。

万年筆で書かれているので筆圧により文字の直線部はかすかに読み取れるが丸みの部位は判読できなかった。後半部は「飛行■（飛行場）」と読み取れるが、前半部は文章として全体を把握することは出来なかった。

写真29 葉書23



拜啓 まる一ヶ月使っても出さず申譯有りません。暇がないわけでは有りませんが、初夏の風さへ、吹き初めている事と思ひます。もう櫻も散り、満開で今が一番良い気候です。

二十九日の佳節には、家に行つて遊んで来ました。三十日の祭日には、青葉城迄行軍しましたが、良い所です。昌チャンの入隊八月とは驚き、又羨やましく思ひましたが、彼が入隊する頃は南方で先輩ヅラして待っている事を思ふと胸がスーとします。■にもクローバーが一杯青々として居ります。十四日には外出がありそうですが楽しみにして居ります。福井さんによろしく傳へて下さい。では気候に負けず御元気で御暮し下さい。(マスコット、上手に頼みます)

遅れないで下さい) 啓具

(六) 遺品の送付

特攻隊員の遺品はどのようにして遺族のもとに届けられたのか。遺品が納められていた木箱の中にその一端を示すものが残っていた。「遺品陸軍特別攻撃隊猪瀬弘之」と書かれた用紙(12cm×18cm)には隊員の所持品が品名、員数の一覧表でまとめられている。そこには遺書や軍隊手帖、貯金通帳などを始め、箸箱、万年筆、安全カミソリなどの日用品、塵紙、キャラメル、菓子などが列記され、詳細にまとめられている。

一覧表の左に昭和二十年六月十日とあるが、遺品を取り纏め、処置された日付と考えられる。猪瀬少尉は四月十二日に出撃されているので二か月経過してから父親の猪瀬光哉宛に送られている。

佐賀県中原局気付とあるので、これらの遺品を二個の小包、もしくは郵便で中原郵便局から発送されている。

天風第一八九三四部隊は処置した部隊名で、天風は第十二飛行師団の兵团文字符号、一八九三四は第六十五飛行場大隊を指す部隊通称番号である。言い換えれば、九州・山口地区の防空を担当する第十二飛行師団に隷属する第六十五飛行場大隊が遺品の処置を担当し、遺族のもとに送っている。

飛行場大隊には補給中隊と警備中隊とがあり、所在部隊の宿営給養、衛生業務や対空対地の警備などに当たった。

第六十五飛行場大隊は昭和十九年八月に編成され、佐賀県の目達原飛行場に展開した。

猪瀬少尉が所属した第百二振武隊は満州で編成され、朝鮮半島を経由して目達原飛行場に前進し、西往寺に五日間滞在したがその宿営先を確保し、給養を行ったのが第六十五飛行場大隊と考えられる。

第百二振武隊は指示が出たら出撃基地に向かうことになるが、そこでの滞在期間は短く、出撃命令が出されれば速やかに出撃する必

要があることから、経由地である目達原で所持品を整理し、必要最小限の持ち物だけにして万世飛行場に向かったものと考えられる。残された所持品は宿営給養を担当した第六十五飛行場大隊の補給中隊が保管し、戦死の連絡が届き次第、遺品を整理し目録を作った遺族のもとに発送したと考えられる。

用紙の左側には受領証もあり、遺品の取り扱いは厳密に行われていたことがわかる。



写真30 天風第18934部隊が作成した遺品の目録

(七)・三通の遺書

「遺品 陸軍特別攻撃隊 猪瀬 弘之」の用紙に「遺書 一」とある。ただし、実際は本稿で手紙7、手紙8、手紙9と番号を付けた遺書と読み取れる手紙が三通現存する。このいずれかがこの用紙に記載されている遺書に該当するはずである。

また、なぜ両親、姉宛に三通（三回）も遺書を書いたのか。各遺書の書かれた日付、便箋、特徴は次の通り。

【手紙7】

日付…一枚目に「二〇・四・七記 二一時」、二枚目に「二〇・四・

七日記」と記載あり。

便箋…陸軍罫紙二枚、表面使用 法量…24.6cm×35.4cm

特徴…「実は佐賀の一隅で愈々明日不生還の出撃をひかへて英気を養って居ります。」とあり、翌八日に出撃、または出撃基地への前進が差し迫っていることが述べられている。

「荷物は後から送ります。タバコは父上すって下さい」との記述からは、実際翌日に不生還の出撃があれば自分で荷物を送ることはできないので誰かに依頼したか、送られる仕組みがあったことが読み取れる。

遺品の用紙には「タバコ 二六」「恩賜タバコ 一」の記載があり、手紙の内容と合致する。

【手紙8】

日付…二枚目表面に「四月十日 これを記す」と記載あり。

便箋…陸軍罫紙三枚、表面・裏面使用 法量…25.2cm×18cm

特徴…次に紹介する手紙9の内容と類似している。特に両親に宛てた文面は酷似しており、姉宛のものは文面が変わっているが

同一の事を述べている。理由は後述するが、手紙9が先に書かれ、それを下書きとして手紙8が書かれたと推測する。ただその細部では微妙に表現が変わっている箇所があるのでいくつか例を示す。

手紙9では「特攻隊へ志願して選ばれたと知っては」とあるが手紙8では「名譽有る特攻隊に選ばれて征ったと知っては」と特攻隊に選ばれたことは名譽であることを伝えている。

手紙9では「家名のみ心配ですが、それも父上が居られ、大丈夫と信じて征きます」とあるが手紙8では「家名のみ心配ですがそれも父上が居られるのですから大丈夫と安心して征きます」と安心していることを強調している。

手紙9では「母上よ、決して人の前では涙をお見せ下さるな」と強く伝えているが手紙8では「母上よ決して泣かないでください。世間にはもともと可憐な人達が居るのです。」と母親の心情を考えれば涙を流すのが目に見えているのでそれはやむを得ないとしても、泣くだけは我慢して欲しいと語気を落としてお願いしている。

手紙9では「祖国日本の必勝を堅く堅く信じて」と勝つことを願っているのに対し、手紙8では「祖国日本の必勝を確信して」と言い切っている。今は厳しい戦況だとしても自分たちが征く事で最後には必ず勝つ、自分たちの死には大きな意味があるのだから心配しないで欲しいとの趣旨が読み取れる。

このように、手紙9の内容と類似しているものの、全体的に家族に心配をかけないような内容になっている。

【手紙9】

日付…記載なし。

便箋…大政翼賛臣道実践（全面にシワあり） 法量…21.2cm × 18.3cm

特徴…手紙8の項で書いた通りだが、それ以外では「ハイチャイ！いや永遠に眠るのだからグンナイ！ですね。」「ドカンとぶつかって「アイテ」首が無いや、いけね 死んだよ・・・なんてその時になって初めて死んだと云ふ事がわかるかも知れません」と少しくだけた表現が見受けられる。

そして、「呑気だな実際！・・・ア・・・人生わずか二十一年か・・・」とあるように、短く終えることになる人生への思いを吐露している。年齢の二十一は数え年で満年齢では十九歳となる。

便箋に大きな特徴があり、一度クシャクシャにしたような小さなシワが全面についている。

手紙9は手紙8と内容が類似しているものの、これだけ日付が記載されておらず、位置付けが判断できない。しかし、目達原で交流を持った人物が終戦後に遺族に宛てた手紙の中に重要な記述がある。

手紙13

差出人…甲初枝（佐賀縣神崎郡東脊振村）

受取人…猪瀬榮子（東京都瀧野川区）

消印…（受付局…※視認できず 引き受け日…□。□。12）

日付…封筒裏「十月十一日」、便箋に「十月十一日」と記載あり。

〔前略〕御手紙頂きました日の夕方でした。

掃除してきますと、丸こめた紙くずが出て参りました

何かと思へば何と、猪瀬様の御手紙で御座いました。

御両親様と姉上様とに宛てられたのですが 封筒に

入っております丸こめてありましたので書つぶしかとも思はれますが終りまで書いてありますので焼くに

惜しいので 母と一緒に送って上げた方が涙の種とも思いますが、家の者で焼くのは忍びないと云ひまして

今日同封致しておきます。

又皆様をお泣かせ申してはすみませんけれど 私も

泣かされました。ほんとに祖国の必勝を固く固く

信じてとありますのを見ますと、何とも・・・

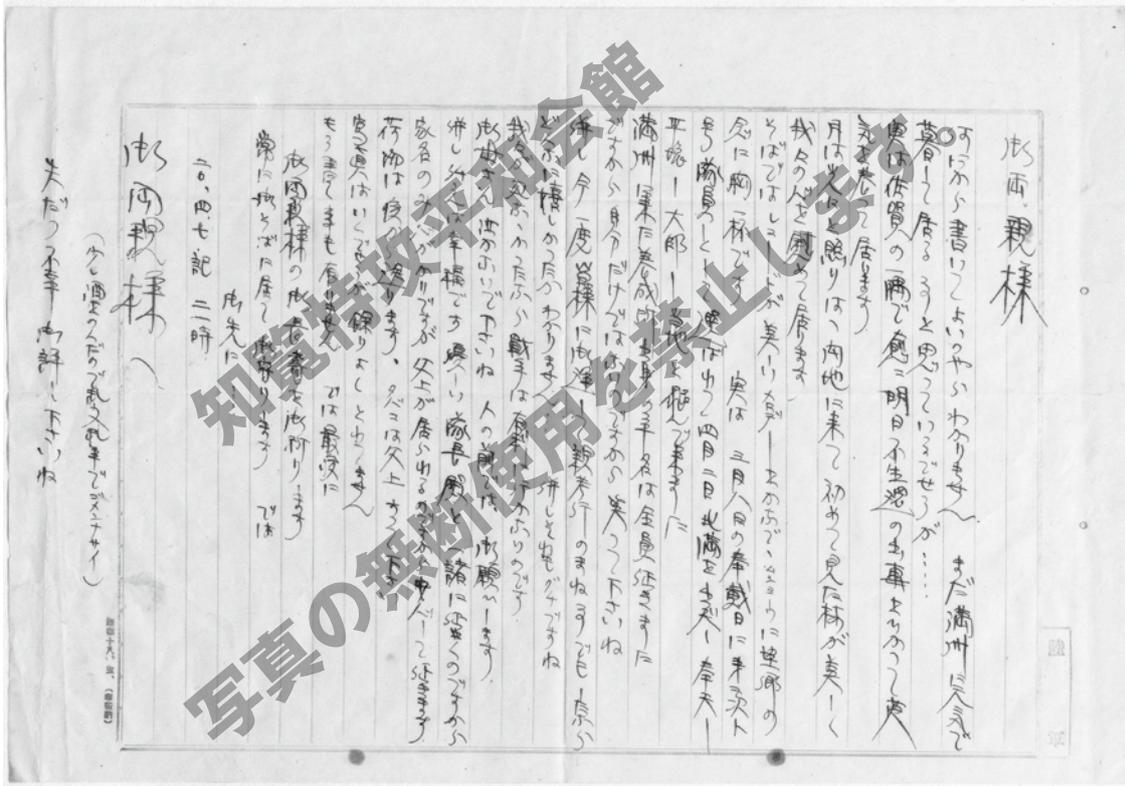
では皆様御元気で新しい道をお進み下さいませ。（後略）

「祖国の必勝を固く固く信じて」との文面は手紙9でも「祖国日本の必勝を堅く堅く信じて」とあり、「丸こめた紙くずが出て参りました何かと思へば何と、猪瀬様の御手紙で御座いました。」これが同封されて遺族のもとに送られたので、便箋全面にシワがついている手紙9と考えられる。手紙9は戦時中に家族の元に届かなかったが、終戦の二か月後、手紙13と共に届けられたと考えられる。

これらの状況を合わせ、三通の遺書の書かれた順番を考えると、編成地から出撃地に向かうため奉天、平壤、大邱と南下し四月七日に目達原飛行場に到着。翌八日に出撃（又は出撃基地に前進）を命じられたので所持品を整理し、遺書（手紙7）を書き遺して宿営休養を担当する第六十五飛行場大隊に送付の依頼を行った。しかし、出撃はなく西往寺で待機することになりその間に改めて遺書（手紙9）を書くが出すのをやめて丸めて捨て、文面を書き直したのが遺書（手紙8）ではないだろうか。

出すのをやめた遺書（手紙9）は戦後に甲初枝氏が掃除の際に気が付き、遺族の元に送ったのである。

写真31 手紙7 (1枚目)



御両親様

何から書いてよいのやらわかりません。まだ満洲に元気で暮して居る事と思つて居るでせうが・・・
 実は佐賀の一隅で愈々明日不生還の出撃をひかへて英気を養つて居ります

月は光にと照りはへ内地に来て初めて見た桜が美しく我々の心を慰めて居ります

そばではレコードが美しいメロデーをかなでてムシヨウに望郷の念に胸一杯です 実は三月八日の奉戴日に第二次ト号隊員として選ばれて四月二日北満を出発し 奉天—平壤—大邱—当地と飛んで来ました

満洲に来た養成所出身の三十名は全員征きましたですから自分だけではないのですから笑つて下さいね

併し今一度皆様に御逢して親孝行のまね事でもしたならどんなに嬉しかったかわかりません・・・併しそれもグチです

我々が死な、かつたなら戦争は有利に行かないのです 御母さん泣かないで下さいね 人の前では、御願ひします

併し弘之は幸福です 優しい隊長殿と一諸(緒)に征くのですから 家名のみ心がかりですが父上が居られるのですから安心して征きます

荷物は後から送ります。タバコは父上すつて下さい 寫眞はいくでせうが餘りよくとれてません

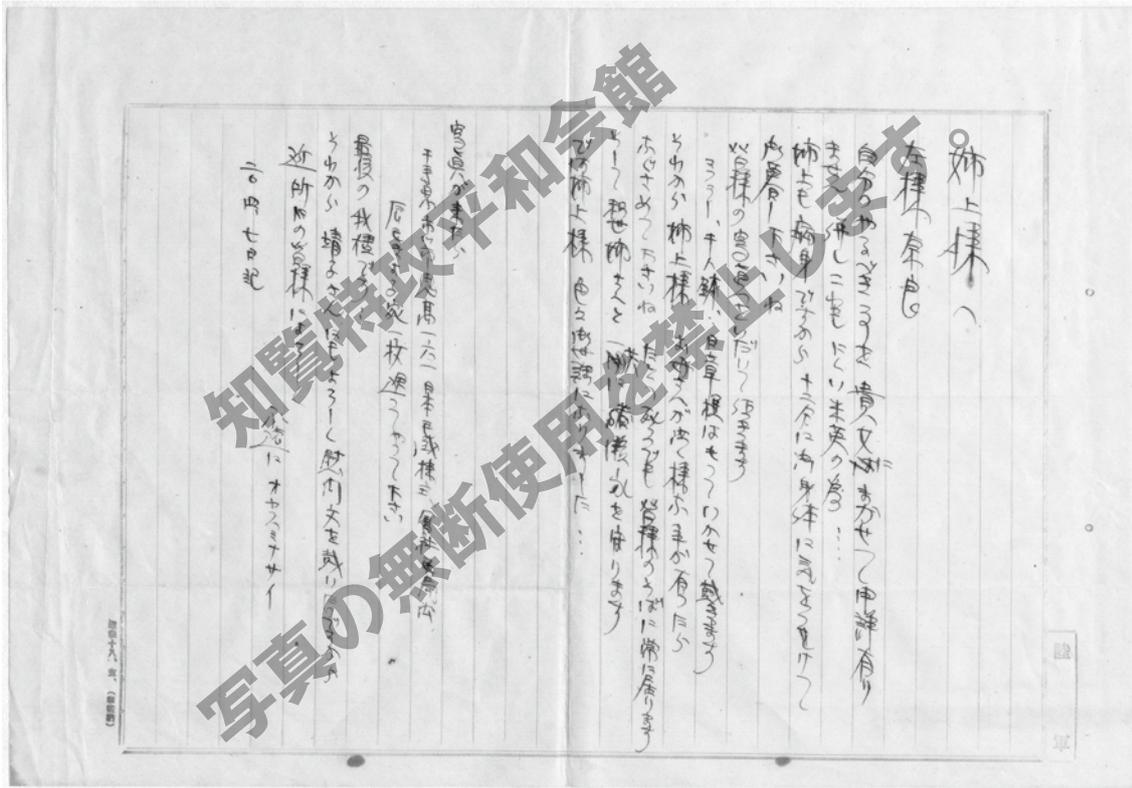
もう書く事も有りません では最後に

御両親様の御長壽を御祈りします 常に御そばに居て御守ります では

御先に・・・

二〇、四、七記 二一時
 御両親様へ
 (少し酒をのんだので乱文乱筆でゴメンナサイ)
 先だつ不幸御許し下さいね

写真32 手紙7 (2枚目)



姉上様へ

左様奈良

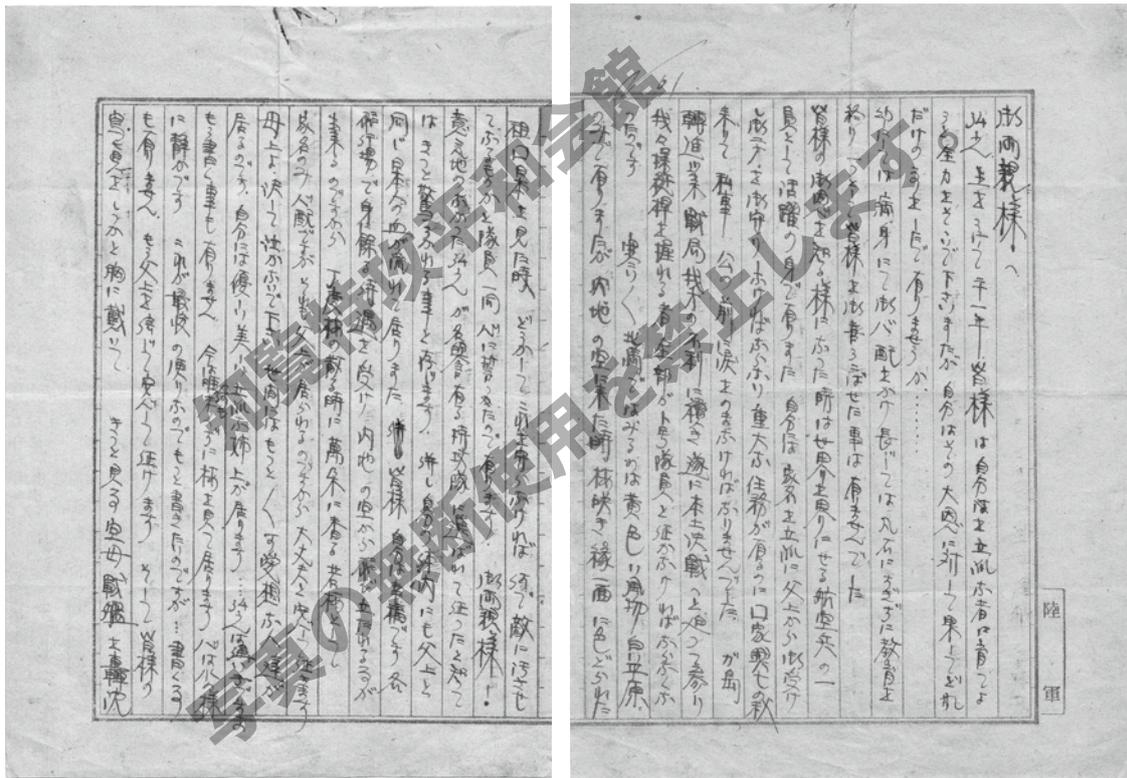
自分のやるべき事を貴女にまかせて申訳有り
ません 併しこれにもくい米英の爲・・・
姉上も病身ですから十二分に御身体に気をつけて
御暮し下さいね

皆様の寫眞をいだいて征きます
マフラー、千人針、日章旗はもつていかせて戴きます
それから姉上様 お母さんが泣く様な事が有ったら
なぐさめて下さいね たとへ死んでも皆様のそばに常に居ります
そして和世姉さんと一共に 猪瀬家を守ります
では姉上様 色々御世話になりました・・・

寫眞が来たら、
千葉県市川市鬼高一六一 日本毛織株式会社医局内
辰巳きよ子宛一枚送ってやって下さい
最後の我儘です・・・
それから靖子さんにもよろしく慰問文を戴いたのですから
近所の皆様によろしく
二〇、四、七日記
永遠にオヤスミナサイ

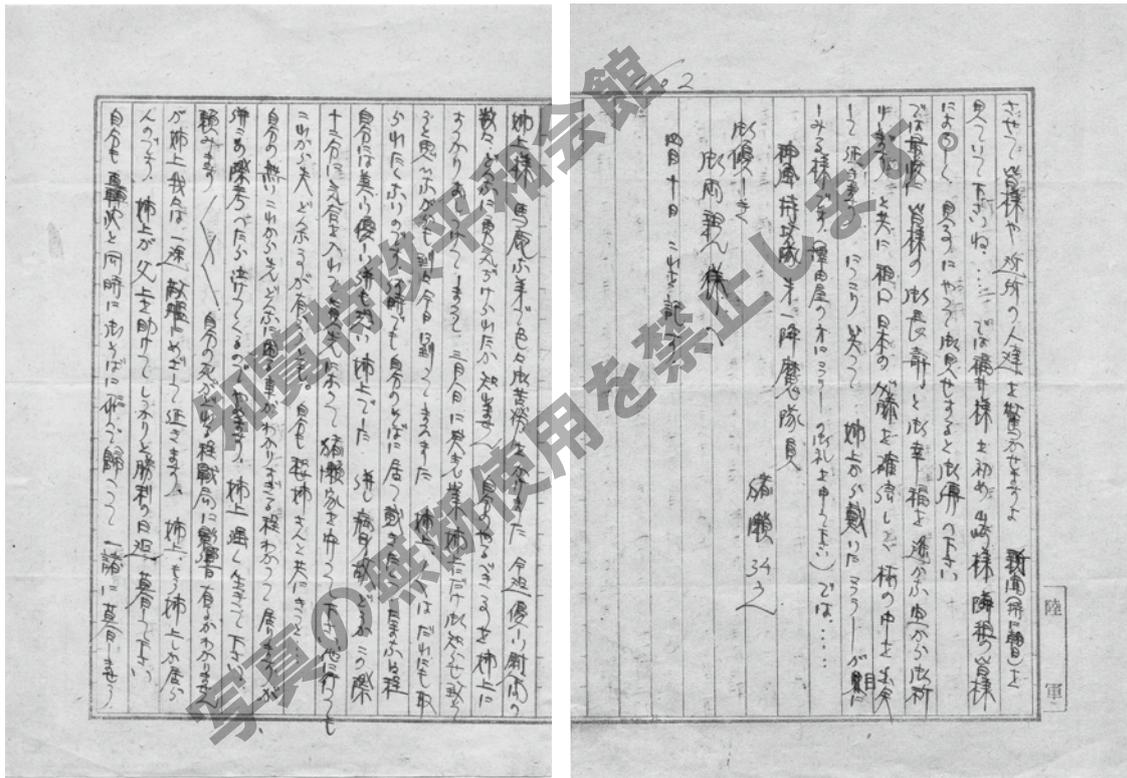
知覧特攻平和会館 写真の無断使用は禁止

写真33 手紙8 (1枚目 表面・裏面)



御両親様へ
 弘之生をうけて二十一年皆様は自分を立派な者に育てよ
 うと全力をそ、いで下さいました自分がその大恩に対して果してどれ
 だけの事をしたで有りませうか・・・
 幼にしては病身にて御心配をかけ長じては凡石にすぎずに教育を
 終り一つとして皆様を御喜ぶこぼせた事は有りませんでした
 皆様の御恩を知る様になった時は世界を異にせる航空兵の一
 員として活躍の身で有りました 自分には家名を立派に父上から御受け
 し御二方を御守りしなければならぬ重大な任務が有るのに国家興亡の秋
 来りて私事公の前に涙をのまなければなりませんでした。 ガ島
 轉進以来戦局我方の不利に續き遂に本土決戦へと迫って参り
 我々操縦桿を握れる者全部がト号隊員と征かなければならなくな
 ったのです 寒い寒い北満ではみるのは黄色い風物白い平原
 のみで有りましたが内地の空に來た時桜咲き緑一面に色どられた
 祖国日本を見た時 どうかしてこれを守らなければ 何で敵に汚させ
 てなるものかと隊員一同心に誓ったので有ります。御両親様！
 意気地のなかつた弘之が名譽有る特攻隊に選ばれて征ったと知って
 はきつと驚ろかれる事と存じます。併し自分の体内にも父上と
 同じ日本人の血がながれて居りました。皆様 自分は幸福です各
 飛行場で身に餘る待遇を受け内地の空から飛び立たれる事が
 出来るのですから 丁度桜の散る時に萬葉に香る若桜として
 家名のみ心配ですがそれも父上が居られるのですから大丈夫と安心して征きます
 母上よ決して泣かないで下さい 世間にはもともと可憐な人達が
 居るのです。自分には優しい美しい立派な姉上が居ります・・・弘之は強い子ですよ
 もう書く事も有りません 今は唯何も考へずに桜を見て居ります 心は水の様
 に静かです これが最後の便りなのでもっと書きたいのですが・・・書く事
 も有りません。もう父上を信じて安心して征けます。そして皆様の
 寫眞をしっかりと胸に戴いて きつと見る空母戦艦を轟沈

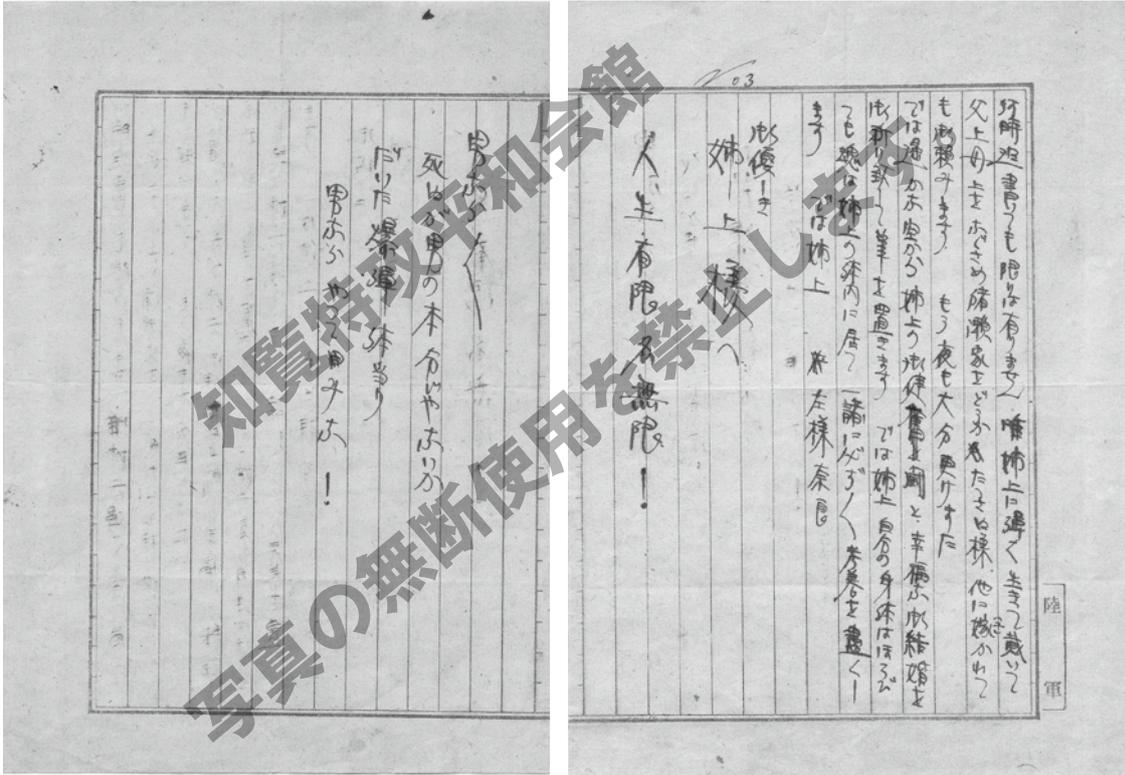
写真34 手紙8 (2枚目 表面・裏面)



させて皆様や近所の人達を驚かせますよ 新聞(特に朝日)を
 見ていて下さいね... では福井様を初め山崎様 隣組の皆様
 によりしく、見事にやって御見せすると御傳へ下さい
 では最後に皆様の御長壽と御幸福を遥かな空から御祈
 りします と共に祖国日本の必勝を確信して桜の中を出発
 して征きます につこり笑って 姉上から戴いたマフラーが目
 しみる様です(澤田屋の方にマフラーの御礼を申して下さい)では...
 神風特攻隊第一降魔隊員
 猪瀬 弘之
 御優しき
 御両親様へ
 四月十日 これを記す。

姉上様 馬鹿な弟で色々御苦勞をかけました 今迄優しい慰問の
 数々どんなに勇氣づけられたか知れませんが 自分のやるべき事を姉上に
 すっかりおしつけてしまつて 三月八日に発表榮姉上にだけ御知らせ致そ
 うと思ひながらも到(等)々今日に到つてしまひました 姉上、姉上はだれにも取
 られたくないのです。何時でも自分のそばに居て戴きたくてたまなぬ程
 自分には美しい優しい併も恐い姉上でした 併し病身故どうかこの際
 十二分に気合を入れて眞先になつて猪瀬家を守つて下さい。他に何行つても
 これから先どんな事が有らうとも。自分も和世姉さんと共にきつと...
 自分の無いこれから先どんなに困る事がわかりすぎる程わかつて居りますが
 併この際考へたら泣けてくるのでやめます。姉上強く生きて下さい。
 頼みます頼みます頼みます自分の死がどれ程戦局に影響有るかわかりませ
 んが姉上我々は一途敵艦にめざして征きます。姉上、もう姉上しか居ら
 んのです。姉上が父上を助けてしっかりと勝利の日迄暮らして下さい
 自分も轟沈と同時に御そばに飛んで歸へつて一諸(緒)に暮ませよう

写真35 手紙8 (3枚目 表面・裏面)



何時迄書いても限りは有りません 唯姉上に強く生きて戴いて
 父上母上をなぐさめ猪瀬家をどうかたやさぬ様、他に嫁かれて
 も御頼みます。 もう夜も大分更けました
 では遥かな空から姉上の御健闘と幸福な御結婚を
 御祈り致して筆を置きます では姉上自分の身体はほろび
 ても魂は姉上の体内に居て一諸(緒)に必ず必ず孝養を盡くし
 ます では姉上 左様奈良

御優しき

姉上様へ

人生有限名無限！

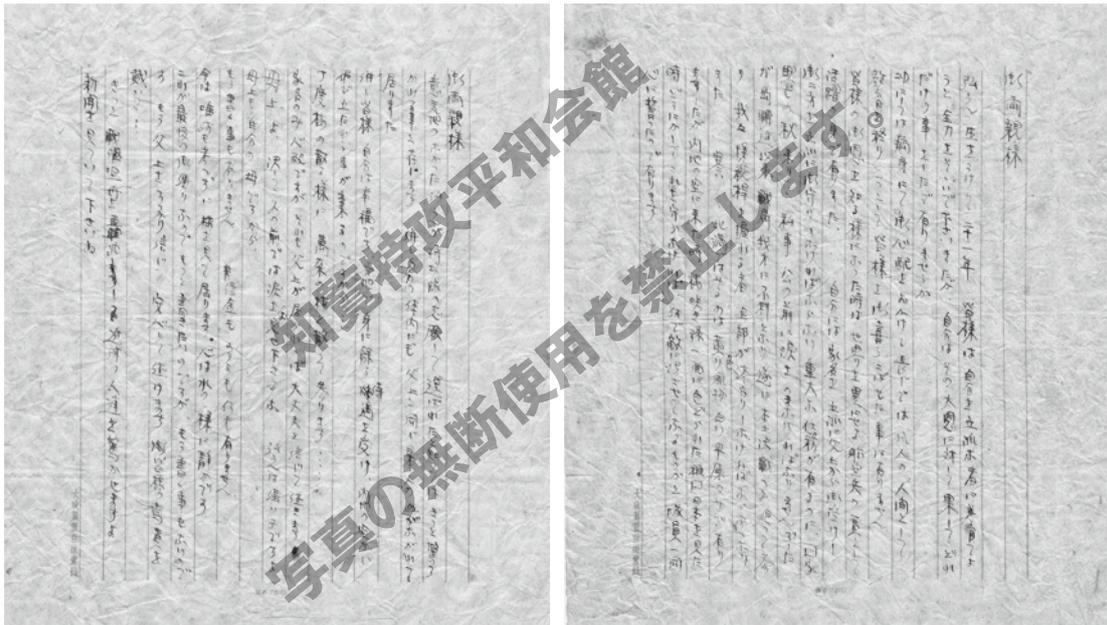
男なら男なら

死ぬが男の本分じゃないか

だいた爆弾体当り

男ならやってみな！

写真36 手紙9 (1枚目・2枚目)



御両親様

弘之生をうけて二十一年。皆様は自分を立派な者に育てようと全力をそ、いで下さいましたが、自分はその大恩に対して果たしてどれだけの事をしたで有りませうか
 幼にしては病身にて御心配をおかけし長じでは凡人の人間として教育を終り、一つとして皆様を御喜ろこぼせた事は有りませぬ
 皆様の御恩を知る様になった時は世界を異にせる航空兵の一員として活躍の身で有りました。自分には家名を立派に父上から御受けし御二方を立派に御守りしなければならぬ重大な任務が有るのに、国家興亡の秋来りて、私事公の前に涙をのまなければなりませんので、国家ガ島轉進以来戦局我方に不利となり遂に本土決戦へと迫つて参り我々操縦桿を握れる者全部が体当りしなければならなくなり
 また 寒い寒い北滴ではみるのは黄色い風物 白い平原のみで有りましたが、内地の空に來た時、桜咲き緑一面に色どられた祖国日本を見た時どうかしてこれを守らなければ、何で敵に汚させてなるものかと隊員一同心に誓つたので有ります。

御両親様

意気地のなかつた弘之が特攻隊へ志願して選ばれたと知つてはきつと驚ろかれる事と存じます 併し自分の体内にも父上と同じ日本人の血がながれて居りました
 併し皆様 自分は幸福です。各地で身に餘る待遇を受け、内地の空から飛び立たれる事が出来るのですから・・・
 丁度桜の散る様に 萬葉の桜と散つて参ります・・・
 家名のみ心配ですが、それも父上が居られ、ば大丈夫と信じて征きます
 母上よ、決して人の前では涙をお見せ下さるな 弘之は強い子です
 母上も自分の母ですから。
 もう書く事も有りませぬ。借金も ウラミも 何も有りませぬ。
 今は唯も考へずに桜を見て居ります。心は水の様に静かです。
 これが最後の御便りなのでもっと書きたいのですが、もう書く事もないのです。もう父上をすっかり信じて安心して征けます 皆様の寫眞を戴いて・・・
 きつと戦艦空母を轟沈して近所の人達を驚かせますよ
 新聞を見て下さいね

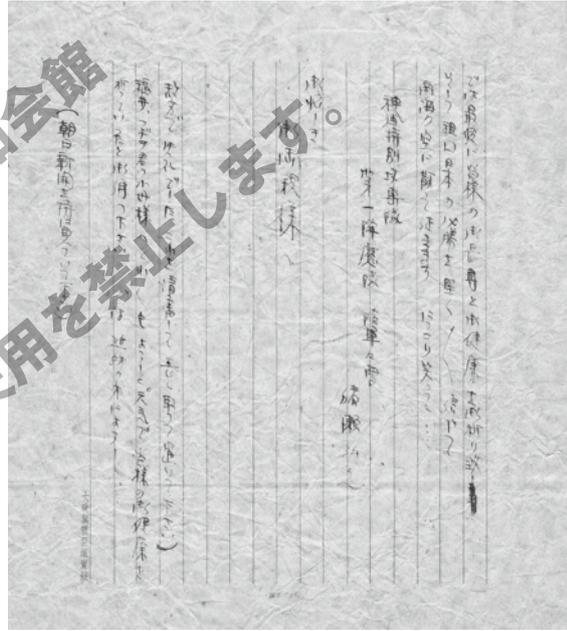
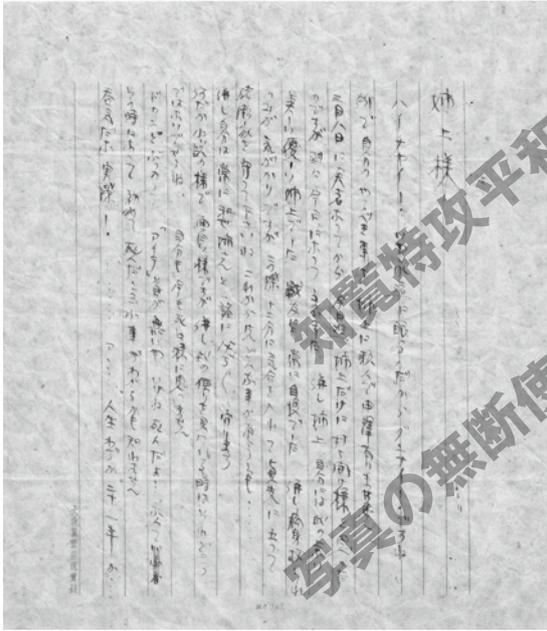


写真37 手紙9 (3枚目・4枚目)

姉上様
 ハイチャイ！いや永遠に眠るのだからゲンナイ！です
 所で自分のやるべき事を姉上に頼んで申譯有りません
 三月八日に発表なつてから今日迄 姉上だけに打ち明け様と思つた
 のですが到々今日になつてしまひました。併し姉上、自分には此の上ない
 美しい優い姉上でした 戦友にも常に自慢でした 併し病身故それ
 のみが気がかりですが この際十二分に気合を入れて真先に立つて
 猪瀬家を守つて下さいね これから先どんな事が有ろうとも・・・
 併し自分は常に和世姉さんと一諸(緒)に必ず必ず守ります
 何だか小説の様で面白い様ですが併し此の便りを見ている時はそれどころ
 ではないでせうね。自分も今も死ぬ様に思へません
 ドカンとぶつかつて「アイテ」首が無いや いけね 死んだよ・・・なんて
 その時になつて初めて死んだと云ふ事がわかるかも知れません
 呑気だな実際！・・・ア・・・人生わずか二十一年か・・・

では最後に皆様のご長壽と御健康を御祈り致し
 そして祖国日本の必勝を堅く堅く信じて
 南海の空に散つて征きます につこり笑つて・・・
 神風特別攻撃隊
 第一降魔隊 陸軍々曹
 猪瀬弘之
 御懐しき
 御両親様へ
 (乱文で失礼でした。これを清書して長く取つて置いて下さい)
 福井 フチヲ君の小母様へくれぐれもよろしく。元気で皆様の御健康を
 祈つていつたと御伝へ下さい では近所の方よろしく。
 (朝日新聞を特に見ていて下さい)

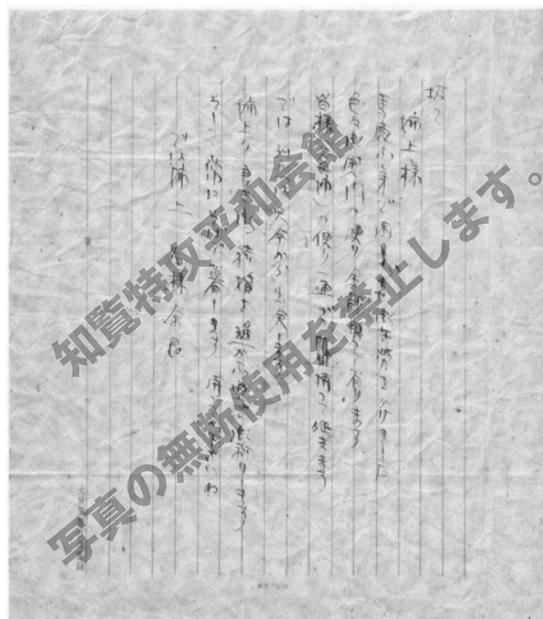


写真38 手紙9 (5枚目)

扱て
 姉上様
 馬鹿な弟で困らせ御苦勞をかけました
 色々御慰問の便り全部取って有ります
 皆様(父母姉)の便り一通づつ持って征きます
 では弘之は只今から出発します
 姉上の良き御結婚を遥かな空で御祈りします
 そして常にそばで暮します 待って、下さいね
 では姉上 左様奈良

封筒と便箋との組み合わせを折り目をもとに検証する。手紙7の便箋は縦方向に一本、横方向に三本の折り目が確認できる。手紙8も縦方向に一本、横方向に三本の折り目が確認できる。



写真41 手紙7
※折り目を破線で表示

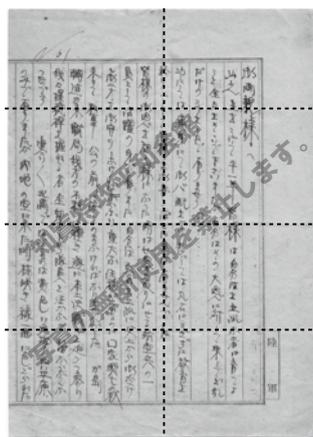


写真42 手紙8
※折り目を破線で表示

折って封筒に入ると考えると、手紙7の便箋は15cm×17.7cmとなり封筒①には入るが、封筒②には入らない。手紙8の便箋は6.3cm×9cmとなり両方の封筒に入るが封筒と便箋との組み合わせを考えると調和がとれているのは封筒②の方である。

これらのことを勘案すると、手紙7は封筒①に入れられ、手紙8は封筒②に入れられていたと考えられる。

以上の事から、手紙7は封筒①に入れられ、軍によって取り纏められた「遺品陸軍特別攻撃隊猪瀬弘之」の一覧表の所持品と共に発送されて昭和二十年六月に遺族の元に届き、手紙8は封筒②に入

れられ、猪瀬少尉もしくはは接点があった方が郵便に出し、昭和二十年四月十一日に佐賀の郵便局で引き受けられ、普通郵便として数日後に遺族のもとに届いたと考えられる。

(九) 出撃直前に書かれた葉書

第二百振武隊に対し、鹿児島県の万世飛行場に前進するよう指示が出され、四月十一日の午後四時頃、目達原飛行場を後にした。

その前後、四月十一日、十二日の消印が押された葉書が五通ある。葉書の写真と文面は次ページ以降に示す。

葉書42・葉書43は消印が薄く引き受け年が読み取れないが、昭和二十年四月一日に料金改定が行われ第二種（通常葉書）が五銭に値上がりし、それに相当する切手が貼つてあるので□は昭和二十年であることがわかる。

葉書42と葉書44、葉書43と葉書45は同一人物にほぼ同じ内容のものを目達原及び加世田から送っている。なぜこのように重複させたのか、定かではない。

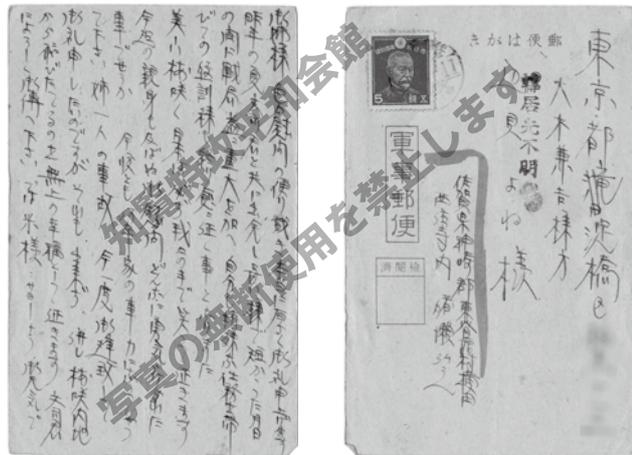
葉書46のみ差出人住所が加世田町 飛龍荘内となっている。飛龍荘とは、前進した万世飛行場から3kmほど離れた加世田町内の旅館で、特攻隊員の宿舎となっていた。よって、最後の宿泊地で書かれた葉書である。

宛名と差出人住所の間に「四月□十四日 入手ス」と遺族が受け取った日付が記されている。四月十二日に発信（引き受け日）されているので十四日に受け取ったのであれば二日で、二十四日であれば十二日で配達されたことがわかる。

葉書47は表面が空白となっている。裏面に「昭和二十年四月十二日 午後十四時―十五時命中ス」と記されている。

御姉様色々慰問の便り戴き本当に厚く御礼申上げます
 昨年の夏文司君と共に出発し長い様で短かった月日
 の間に戦局益々重大を加へ自分も特殊な任務を帯
 びての猛訓練も終り愈々征く事となりました
 美しい桜咲く日本は必ず我々の手で 笑って征きます
 今迄の親身も及ばぬ御慰問どんなに勇気づけられた
 事でせうか 今後とも何卒家の事力になってやっ
 て下さい 姉一人の事故、今一度御逢致して
 御礼申したいのですがそれも出来ず。併し桜咲内地
 から飛びたてるのを無上の幸福として征きます 文司君
 によるしく御傳へ下さい では米様 ・サヨーナラ 御元気で

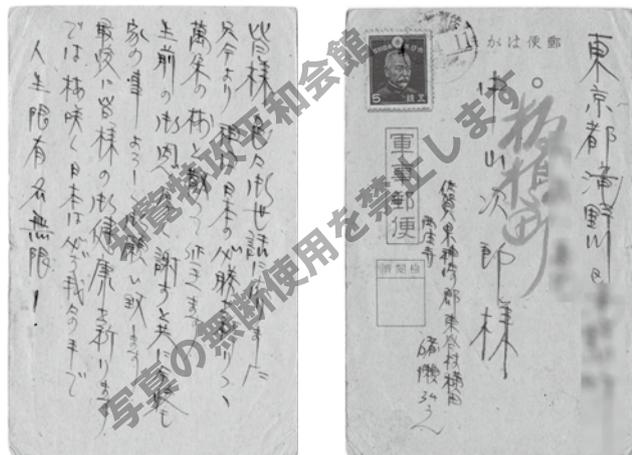
写真43 葉書42



差出人：猪瀬 弘之
 差出人住所：佐賀県神崎郡東脊振村横田 西往寺内
 受取人：辺見 よね
 受取人住所：東京都淀橋区 大木兼吉様方
 消印（受付局：佐賀目□□ 引き受け日：□.4.11）
 葉書の種類：軍用葉書（切手を貼って発信）
 検 閲 印：検閲欄はあるが捺印はされていない

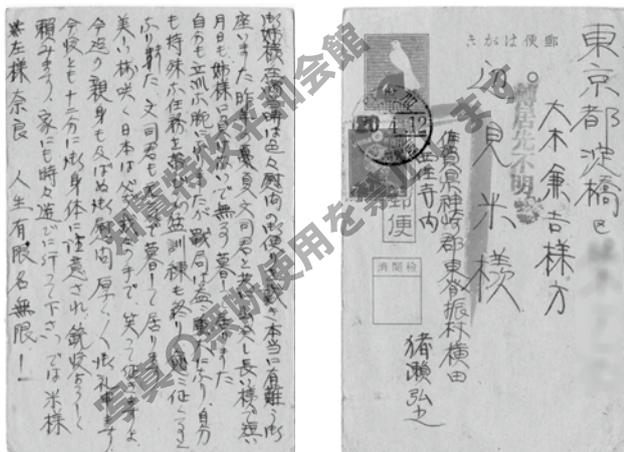
皆様色々御世話になりました
 只今より祖国日本の必勝を祈りつ、
 萬朶の桜と散って征きます
 生前の御恩厚く謝すと共に今後も
 家の事よろしく御願ひ致します
 最後に皆様の御健康を祈ります
 では桜咲く日本は必ず我々の手で
 人生限有名無限！

写真44 葉書43



差出人：猪瀬 弘之
 差出人住所：佐賀県神崎郡東脊振村横田 西往寺内
 受取人：中山 次郎
 受取人住所：東京都滝野川区
 消印（受付局：佐賀目□□ 引き受け日：□.4.11）
 葉書の種類：軍用葉書（切手を貼って発信）
 検 閲 印：検閲欄はあるが捺印はされていない

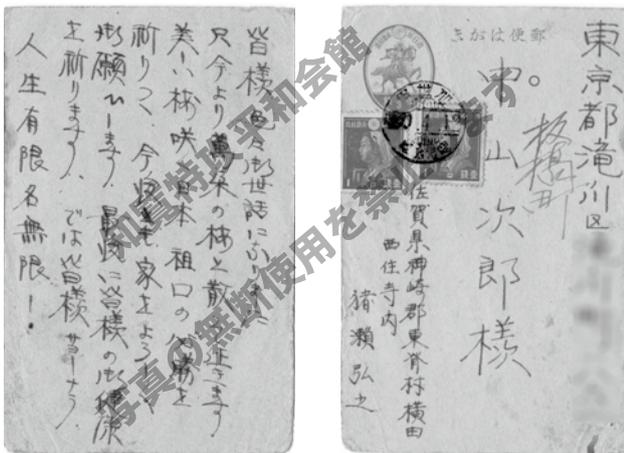
写真45 葉書44



差出人：猪瀬 弘之
 差出人住所：佐賀県神崎郡東脊振村横田 西往寺内
 受取人：辺見 米
 受取人住所：東京都淀橋区 大木兼吉様方
 消印（受付局：加世田 引き受け日：20.4.12）
 葉書の種類：軍用葉書（切手を貼って発信）
 検閲印：検閲欄はあるが捺印はされていない

御姉様は満当時は色々慰問の御便りを戴き本当に有難う御座いました。昨年夏文司君と共に出発し長い様で短い月日も姉様に負けないで無事暮して居りました。自分も立派な腕になりましたが戦局は益々重大になり、自分も特殊な任務を帯びての猛訓練も終り愈々征く事となりました。文司君も元気で暮して居ります。美しい桜咲く日本は必ず我々の手で。笑って征きますよ。今迄の親身も及ばぬ御慰問厚く厚く御礼申します。今後とも十二分に御身体に注意され、銃後よろしく頼みます。家にも時々遊びに行つて下さい。では米様左様奈良 人生有限名無限！

写真46 葉書45



差出人：猪瀬 弘之
 差出人住所：佐賀県神崎郡東脊振村横田 西往寺内
 受取人：中山 次郎
 受取人住所：東京都滝野川区
 消印（受付局：加世田 引き受け日：20.4.12）
 葉書の種類：郵便葉書
 検閲印：検閲欄はなく捺印もされていない

皆様色々御世話になりました。只今より萬朶の桜と散つて征きます。美しい桜咲く日本 祖国の必勝を祈りつ、今後も家をよろしく御願ひします。最後に皆様の御健康を祈ります。では皆様サヨナラ 人生有限名無限！

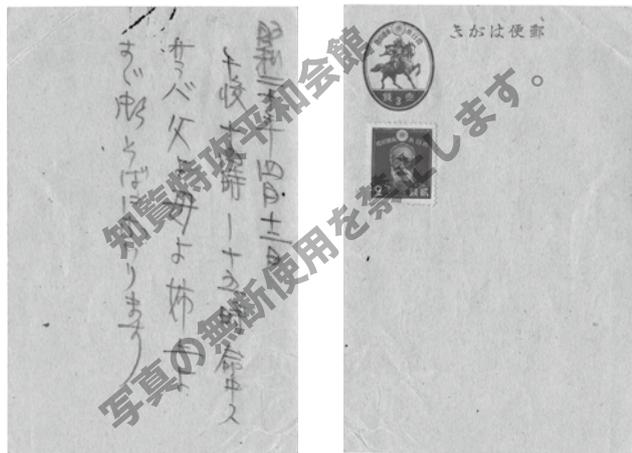
写真47 葉書46



差出人：猪瀬 弘之
 差出人住所：鹿児島県川辺郡加世田町 飛龍荘内
 受取人：猪瀬 光哉
 受取人住所：東京都滝野川区
 消印（受付局：加世田 引き受け日：20.4.12）
 葉書の種類：郵便葉書
 検閲印：検閲欄はなく捺印もされていない

元気で笑って征きます
 どうか御安心下さい くれぐれも皆様
 御身御大切に
 最後に皇国の必勝を祈りつゝ、
 萬才を叫んで参ります
 では御元気で

写真48 葉書47



差出人：記載なし
 差出人住所：記載なし
 受取人：記載なし
 受取人住所：記載なし
 消印（受付局：記載なし 引き受け日：記載なし）
 葉書の種類：郵便葉書
 検閲印：検閲欄はなく捺印もされていない

昭和二十年四月十二日
 午後十四時—十五時命中ス
 サラバ父よ母よ姉上よ
 すぐ御そばにまいります

第六航空軍の資料「振武隊編成表」によると猪瀬少尉は四月十二日十一時四十分出撃と記録されており、搭乗した九九式襲撃機で六百五十km先の沖繩まで飛行すると二時間半ほどの飛行時間が必要となるので、沖繩にたどり着き、敵艦に突入する時刻を正確に記している。そのことから、出撃時刻が告げられた後に書いたことが考えられる。

表面が空白で差出、宛先共に記載がないので万世まで持っていた所持品と共に遺族の元に届けられたと考えられるが、遺品送付の用紙等は確認できず、どのようにして届けられたのか定かではない。

七. 課題

本稿で猪瀬少尉の軍事郵便を紹介したが、多くの課題も見えてきた。葉書や手紙にはその時の状況、心情が限られた紙面に込められている。その内容をより正確に理解するためにも修養日記や操縦日記も合わせて読み解く必要がある。

そして、行動を共にした隊員の葉書・手紙との比較、目達原で宿泊した西往寺や出撃地にある万世特攻平和祈念館など、他所に残る資料の把握とそれらを含めた分析も必要である。

軍務に就き、宿营地から軍事郵便を出すのであれば当然、検閲を受けるだろうが、今回調査した中では休暇や移動で外出した際に普通郵便で出されたものも確認出来た。これは特異な行為であったのか、それとも他の将兵たちも行っていたのか、その普遍性を調べる研究も必要である。

おわりに

一人の郵便物も軍事郵便・普通郵便の使用、それによる検閲の有無、遺品の送付者・送付方法等、多くの事例を示すことが出来た。

軍事郵便を調べる際は、その法規や固定観念にとらわれず、消印・差出人欄・葉書の種類、検閲欄や検閲印の情報を観察する必要がある。そして、書いた人物の軍歴と照らし合わせる必要がある。

生い立ち、家庭環境も分かればこれらを基礎情報として、その時の立場・階級、任務を合わせていくことで内容の理解が深まる。書かれた文面の分析と共に、書いた人物の調査と、双方のアプローチが必要である。

軍事郵便は検閲があるものの、文面に「便りを澤山下さい」「皆様の御便りだけが楽しみです。どうか家中で下さい。」と何度も出てくるように双方が楽しみにしていたことが伝わってくる。

戦火が及んでいなかったこともあるが、昭和二十年初頭でも満州の奥地から郵便物が届いており、郵便制度が機能していたことが伺える。

猪瀬少尉の遺書が三通も遺ったことは稀有な事例だが、そこからは特攻隊員の死の受け止め方、残された家族への気遣いなど当時の若者の心情の一部が時代を超えて伝わってくる。

軍事郵便はその時代の空気の中で書かれ、その時の制度によって届けられているが、時代の大きな流れの中で懸命に発せられた声ともいえる。戦後七十五年が経過し、時代の空気と制度は変わったが、当時の若者が発したものととしてその声に耳を傾けていただければ幸いである。

参考文献

- ・新井勝紘『軍事郵便の基礎的研究(序)』(国立歴史民俗博物館研究報告 二〇〇六年)
- ・財満幸恵『戦中の軍事郵便とその検閲について』(昭和のくらし研究 二〇一〇年)
- ・防衛庁防衛研究所戦史部『戦史叢書 沖縄・台湾・硫黄島方面 陸軍航空作戦』(朝雲新聞社 一九七〇年)
- ・航空碑奉賛会『統陸軍航空の鎮魂』(航空碑奉賛会 一九八二年)
- ・押尾一彦『特別攻撃隊の記録(陸軍編)』(光人社 二〇〇五年)
- ・中島秋男『弟よ、安らかに眠るな』(栄光出版社 一九八五年)
- ・加藤拓『陸軍航空特別攻撃隊各部隊総覧 第1巻 突入部隊』(自費出版 二〇一八年)

(やまき・さとし 知覧特攻平和会館 専門員)

<要旨>

平成 23 年、第 102 振武隊 猪瀬 弘之少尉の遺品が知覧特攻平和会館に寄贈された。その中には葉書や手紙などの軍事郵便が数多く含まれていた。

これらを時系列に並べると、飛行兵の歩みを始める前から特攻出撃直前までのほぼ全期間のものが残されていた。極めて稀な事例であり、資料群として調査を進めていけば当時の郵便事情、軍事郵便の役割や検閲の実状、送り手の心理状態などを明らかに出来る資料ではないかと考えた。

遺品が納められていた木箱には軍が取り纏めて遺品を送付した用紙も同封されていた。そこには隊員の所持品が列記され、処置した部隊名、日付、発送した郵便局名が記載されており、遺品が遺族に届けられるまでの経路を読み取る事ができた。

家族に宛てた遺書が 3 通 (3 回) 書かれていたが、これらはどのような位置付けでそれぞれ書かれたのか、文面の比較、封筒・便箋を調べることにより当時の出された状況を検証した。

本稿では、特攻隊員の葉書や手紙などを郵便物としての視点で、軍事郵便の実状、出撃直前に書かれた手紙や葉書はどのように出されたのか、遺品はどのようにして遺族のもとに届いたのか、実例を示して紹介する。

<Summary>

Introducing Primary Source Documents: “Military Mail left by Second Lieutenant Hiroyuki Inose”

In the year of Heisei 23(2011), a collection of Second Lieutenant Hiroyuki Inose’s belongings, who was from the 100th Shinbutai Regiment, was donated to Chiran Peace Museum. Among these relics were many items of military mail such as postcards and letters.

When these relics are assembled in chronological order, an almost complete period of time is documented: from pre-enlistment, to his time as an airman, through to a period just prior to his final sortie. This collection presents a particularly rare case and we consider it to be a collection that reveals much about the postal affairs of the time, the role of military mail, the censorship process, and the correspondents’ states of mind. We believe that with further work much more can be gleaned from this material.

Inside the wooden box containing these relics, a military postal form was also enclosed. Written on the form was a list of the items in the box: the name of the regiment that handled them, the date, and the name of the post office from where they were dispatched. We were thus able to follow the process by which his bereaved family received his relics.

The box also included three wills addressed to his family. We were able to verify when and where the wills were written by comparing the contents of each will and carefully examining the text, the envelopes and the writing paper.

In this paper we have shown that by examining postcards, letters and other postal relics, we were able to follow the process by which they were handled by the military and finally dispatched to his family, including those written just prior to the kamikaze pilot’s final sortie.